

島 通保・芦田和男・角屋 睦・三雲 健 4 教授の御退官によせて

島 通保先生、芦田和男先生、角屋 睦先生、三雲 健先生には、平成 4 年 3 月 31 日をもって京都大学を停年退官され、京都大学名誉教授となられました。ここに、4 先生の京都大学ご在職中における御業績と永年にわたり防災研究所の発展に御尽力いただいた御功労の一端をご紹介します、感謝の意を表したいと思います。

島 通保先生は、昭和 28 年京都大学理学部物理学科を御卒業の後、同大学院理学研究科地球物理学専攻に進学され、昭和 32 年に京都大学理学部助手（地球物理学教室）に任用されました。昭和 38 年に防災研究所助教授（地震動部門）、昭和 46 年地すべり部門に移られて、昭和 47 年教授に昇任されるとともに、昭和 48 年からは防災研究所附属徳島地すべり観測所長を併任され、地すべりの研究と後進の指導育成ならびに施設の管理運営と設備の拡充に尽力されました。

先生の御研究は、火山物理学、地震学ならびに地すべりの問題を中心とした災害科学、防災科学など、非常に広範な専門分野にわたっております。初期の地球物理学教室においては、阿蘇火山の震動と地表変動の観測資料を解析して、熱弾性及び弾性波動論によって、マグマ溜りの位置・大きさを推定し、火山爆発機構について統一的説明をされました。防災研究所地震動部門においては、孔中固定式地震計を用いた地震波検層及び加振器を用いた地盤震動特性の直接評価法の研究、さらに、多層媒質中における地震波の数値計算法の開発、遠方の地震観測と震源近傍での振動実測値との対応の究明など、数多くの業績を残されました。

地すべり部門及び徳島観測所においては、地すべりの前駆現象と移動に関する計測法の開発、地すべり層の移動機構とその抵抗力分布の推定法などの詳細な移動計測法とその理論的研究に多大な成果を挙げられました。そして、先生が開発された地すべり自動計測システムは、全国の主要な地すべり監視モデル地域において、その移動特性の解明、対策工事及び避難基準の確立に向けて活用されています。一方、教育面でも多くの人材を育成されたのはいうまでもありませんが、特に、地すべり災害の多い諸外国からの留学生の研究指導にも尽力されました。

学外にあっては、地すべり学会の運営委員として、学術面及び実際面における地すべり研究の推進に多大の貢献をされるとともに、地すべり学会関西支部の設立に尽力され、昭和 53 年支部設立後 2 期にわたって支部代表を務められました。さらに、建設省の二次災害防止委員会、亀の瀬地すべり技術委員会など数多くの行政機関の委員会においてご活躍になり、地すべり災害の防止・軽減のために尽くしてこられました。

芦田和男先生は、昭和 27 年に京都大学工学部土木工学科を御卒業になり、建設省土木研究所河川研究室に奉職されました。昭和 36 年京都大学工学部助教授に任ぜられ、その翌年に防災研究所へ移られ、昭和 40 年教授に昇任されて、昭和 46 年まで河川災害研究部門、ついで砂防研究部門を担当されました。その間、広い学識と実行力をもって研究の推進と後進の教育に当たられ、多数の人材を育成されました。また、昭和 46 年から防災研究所附属穂高砂防観測所長を併任され、施設の整備・充実に努められました。さらに、昭和 56 年から 2 年間、防災研究所の所長ならびに同附属防災科学資料センター長及び水資源研究センター長を務められるとともに、京都大学評議員として本学の管理運営にも多大の貢献をされました。先生の研究活動は、土砂の生産・流出、砂礫の輸送と河道変動、貯水池堆砂と密度流、河口部のデルタなど、土砂水理学の中核をなす課題の基礎研究は言うに及ばず、河川・砂防構造物の水理機能、洪水・土砂災害現象の解明とその防止・軽減法の研究など、水理学・河川工学・砂防工学ならびに防災工学に関わる広い分野にわたっております。これらの研究業績は国内外で高く評価され、著書「河川の土砂災害と対

策」では土木学会著作賞を受賞されるとともに、土砂水理学に関する御功績により砂防学会赤木賞を受賞されました。

学外にあっては、国土庁水資源開発審議会委員、文部省測地審議会委員をはじめとして、国・地方自治体における各種委員を歴任され、その幅広い見識をもって社会に貢献されてこられました。学会活動に関しましても、土木学会評議員、同水理委員会委員長、同関西支部副支部長等の要職を歴任されるとともに、砂防学会の会長に就任され、両学会の発展に大きく貢献されました。さらに、文部省科学研究費補助金で組織されている自然災害科学総合研究班の本部幹事ならびに研究代表者を務められ、自然災害の予測とその防止・軽減に関する研究の発展に尽力され、現在も日本自然災害学会の理事として活躍されておられます。

先生は、研究活動の国際化にも早くから目を向けられ、海外の多くの若手研究者を招聘して共同研究を推進され、国際水理学会議では1981年から8年間にわたって移動床水理学部会の委員として活躍されました。また、1989年には日台災害科学シンポジウムを組織・開催され、さらに、ユネスコの国際泥砂研究センターの理事としてその運営に協力してこられました。

角屋 睦先生は、昭和27年に京都大学農学部を御卒業後、同大学院研究奨学生、昭和30年大阪府立大学農学部助手、昭和33年宇都宮大学農学部助教授を経て、昭和34年京都大学防災研究所助手に任用され、昭和35年同助教授、昭和39年教授に昇任され、その後28年間にわたって内水災害研究部門を担当されました。

先生の御研究は、水文統計、洪水流出とそのモデル化、都市化に伴う出水形態の変化予測、低平地における内水氾濫と災害ポテンシャル、ダム管理に関する水文学的研究など広範にわたっており、それぞれのテーマで数多くの業績を挙げてこられました。これらの研究のうち、災害に関する極値水文量の統計的手法に関する研究により、昭和38年に農業土木学会学術賞を受賞されておられます。また、昭和40年頃から開発された流域の土地利用変化、とくに都市化に伴う出水変化と水害ポテンシャル変化予測の研究は、わが国はもとより世界的にも早く、その先駆的な成果は広く実用に供されております。この功績によって、昭和57年に京都新聞文化賞を受賞されておられます。さらに、平成4年には、これまでの研究成果を総合した「極値水文学の展開と農業水利施設防災計画への応用に関する研究」に対して日本農学賞、読売農学賞を受賞されました。

先生は研究体制の整備拡充にも多大の貢献をされました。特に、自然災害科学総合研究班の活動に早い時期から参画されて、長期研究計画の策定とその具体化に際して重要な役割を果たされ、防災研究所防災科学資料センター実現の基礎をつくられました。また、自然災害科学資料センター整備第2期計画の策定にも主導的な役割を果たされるなど、わが国の自然災害科学の研究推進に多大の貢献をしてこられました。

さらに、文部省及び科学技術庁の審議会専門委員、地方自治体の各種審議会及び委員会の委員や委員長を歴任され、その緻密で卓抜した学識をもって社会に貢献してこられました。また、日本学術会議の地球物理学、陸水学、農業土木学などの研究連絡委員として、学術行政にも尽力されてこられました。学会活動では、農業土木学会の理事、副会長を務められ、昭和63年から2年間は会長に就任されて幅広い見識のもとに学会の発展に尽くされ、また同時に日本農業工学会会長を併任され、農業工学全般の発展に貢献されました。さらに、日本自然災害学会及び水文・水資源学会の創設に尽力され、両学会の評議員として活躍されております。

三雲 健先生は、昭和28年京都大学理学部地球物理学科を御卒業後、同大学院修士課程・博士課程を経て、昭和33年京都大学理学部助手（地球物理学教室）に任用されました。昭和35年に防災研究所地殻変動部門の助教授に昇任され、同48年地震予知計測部門の教授に就任されるとともに、附属上宝地殻変動観測所長を併任されて、同部門・観測所の研究の推進と地震観測網の整備・近代化に当たってこられまし

た。平成2年防災研究所附属地震予知研究センターの発足後は地震発生機構研究分野を担当され、平成3年から同センター主任として研究の統括と管理運営にも尽くされました。

学外にあっても、先生は広範なご活躍をなさいました。昭和49年から同50年まで地震学会委員長を務められ、この間に根尾谷水鳥断層の保存に大変なご尽力をなさいました。また、日本学術会議地球物理学研究連絡委員会委員長、東京大学地震研究所地震予知研究協議会委員、地震予知連絡会委員、科学技術会議専門委員などを歴任され、わが国の地震学及び地震予知研究のために大きく貢献されました。

先生は国外においても早くからご活躍され、昭和37年から2年間にわたりカリフォルニア工科大学地震研究所及びカリフォルニア大学バークレイ地震観測所で地震学の研究に従事され、以後、国際測地学・地球物理学連合、国際地震学・地球内部物理学協会など多くの国際学会で研究成果を発表されました。また、先生は1971年サンフェルナンド地震に関する日米科学共同研究、IDNDR国際共同研究事業の一環としての東アジア地域のテクトニクスと地震発生機構に関する中国との共同研究に着手され、今後の発展が期待されております。

先生の御研究は極めて多岐にわたっておりますが、その中心をなすものは地震の発生機構の研究であって、昭和35年頃の局発地震の研究に始まって現在まで継続・発展されている断層破壊過程に関する数々の研究成果は世界的にも高く評価されています。さらに、跡津川断層周辺における微小地震活動、1968年アラスカ大地震の際に記録された気圧波の解析による地殻変動の研究など、先生のご研究の幅広さを物語るものといえましょう。先生は後進の教育にも大変な熱意をもって当たられ、先生のご指導を受けた多くの方々が立派な研究者として成長され、学界に貢献されておられます。

このように、深い学識と広い視野をもって活躍されてこられた4先生を、防災研究所からお送りすることはまことに残念であります。今後ともさらに自由なお立場から、私どもに対してご指導、ご助言をいただけるものと期待しております。4先生の永年の御功績にあらためて謝意と敬意を表するとともに、御多幸と御健康を心からお祈り申し上げる次第であります。

平成4年4月

京都大学防災研究所所長

村 本 嘉 雄



島 通 保 教 授

島 通 保 教 授 略 歴

昭和3年5月5日 広島市に生まれる
23年3月 広島高等学校卒業
23年4月 京都大学理学部物理学科入学
28年3月 京都大学理学部物理学科卒業
28年4月 京都大学大学院理学研究科(地球物理学専攻)入学
29年6月 京都大学大学院退学
29年7月 京都大学理学部研究員
32年6月 京都大学理学部助手
36年1月 理学博士学位取得(京都大学)
38年4月 京都大学助教授(防災研究所地震動部門)
46年6月 京都大学助教授(防災研究所地すべり部門)
47年4月 京都大学教授(防災研究所地すべり部門)
平成4年3月 京都大学教授を停年退官
4年4月 京都大学名誉教授

島 通 保 教 授 研 究 業 績

論 文

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
	地すべりに関するもの		
1972	亀の瀬地すべりの移動機構について	京大防災研究所年報, 第15号B	竹内篤雄
	串林地すべり地における土地ひずみについて	同上, 第15号B	竹内篤雄
1973	地中内部歪の測定方法について	地すべり, 第5巻	竹内篤雄
1974	串林地すべり地における土地ひずみについて ——その観測体系——	京大防災研究所年報, 第16号B	竹内篤雄
	宮神地すべり地について (1) ——地温測定調査法の有効性に関する研究——	京大防災研究所年報, 第17号B	竹内篤雄
1975	地すべり移動機構の粘弾性的解析について 破碎帯地すべり地の地中歪観測の2, 3の結果	地すべり, 第11巻 京大防災研究所年報, 第18号B	古谷尊彦・小西利史 竹内篤雄
1976	地すべり地上部撓乱による土塊変動について 1m深地温分布の再現性と地下水流脈探査結果 の検証例	地すべり, 第12巻 物理探鉱, 第29巻	竹内篤雄
	地況の地表面日射量および地温に与える影響について	京大防災研究所年報, 第19号B - 1	竹内篤雄
1977	排土に伴う斜面崩壊発生の時期予測の問題について	同上, 第20号B - 1	
	地すべり面における破壊伝播速度について	同上, 第20号B - 1	末峯 章・小西利史
	上嵯峨地すべり地の地下水について	同上, 第20号B - 1	中川 鮮
1978	九鬼地すべり地における水文特性について	同上, 第21号B - 1	末峯 章・小西利史
	上嵯峨地すべり地の地下水について (続)	同上, 第21号B - 1	中川 鮮
1979	兵庫県丸味地すべり地における1m深地温測定 結果について	地すべり, 第16巻	竹内篤雄
1980	伊良原地すべりの移動特性について	京大防災研究所年報, 第23号B - 1	末峯 章・小西利史
	地すべり発生機構に関する二・三の知見 (破碎 帯地すべりの一例)	同上, 第23号B - 1	末峯 章・小西利史
1982	地すべり発生機構に関する2, 3の知見 ——伊良原地すべり地における観測例——	地すべり, 第18巻	末峯 章・小西利史 倉田由夫
	正夫地すべり地における変動観測結果	同上, 第19巻	末峯 章・小西利史
	四国の地すべり	地すべり技術, 第24巻	
1984	Monitoring of Propagation of Subsurface Determination in a Crystalline Schist Land- slide	INTERPREVENT, Vol. 2	A. Suemine
	結晶片岩地すべり地における地温探査と地下水 検層の一調査例	地すべり, 第21巻	末峯 章・小西利史
1987	地球潮汐と結晶片岩地すべりの起こる時間関係 について	同上, 第24巻	末峯 章・小西利史
	長野市地附山地すべりの土質特性と運動	京大防災研究所年報, 第30号	福岡 浩・佐々恭二
1989	高速高圧リングせん断試験機による地附山地す べり・御岳大崩壊の土質特性	同上, 第32号B - 1	福岡 浩・佐々恭二 C. Vibert
	高速高圧リングせん断試験機の開発と地すべり における急速載荷時のせん断強度変化	同上, 第32号B - 1	佐々恭二・福岡 浩

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1990	高速高圧リングせん断試験機による砂質土・粘性土のせん断特性	同上, 第33号B-1	福岡 浩・佐々恭二
	火山物理に関するもの		
1958	On the Second Volcanic Micro-tremor at the Volcanic Aso	Prev. Res. Inst. Bull., Kyoto, Univ. No. 22	
	On the Thermoelasticity in the Semi-infinite Elastic Solid	Ditto, No. 25	
1960	Volcanic Micro-tremors at the Volcanic Aso	Ditto, No. 34	
	弾性波動論に関するもの		
1961	On the Diffraction of Elastic Plane Pulses by the Crack of a Half Plane	Disas. Prev. Res. Inst. Bull., Kyoto Univ., No. 45	
1963	On the Refraction of Cylindrical Pulse in an Infinite Elastic Medium with a Single Layer	Geophys. Paper Dedicated to Prof. K. Sassa	
	On the Diffraction of Elastic Plane Pulses by a Crack of Half Plane (Three Dimension)	Disas. Prev. Res. Inst. Bull., Kyoto Univ., No. 64	
1964	硬質層による屈折地震波の震動特性	京大防災研究所年報, 第7号	
	地盤震動特性に関するもの		
1965	新潟地震被災地における弾性波探査	京大防災研究所年報, 第8号	吉川宗治・後藤典俊
	新潟地震被災地における人為加振による地盤調査	同上, 第8号	吉川宗治・後藤典俊
1966	地盤調査における2, 3の問題	同上, 第9号	吉川宗治・後藤典俊
	自然地震および人為加振による地盤の震動特性について	同上, 第9号	吉川宗治・入倉孝次郎
1967	Vibrational Characteristics of the Ground Investigated by Several Methods	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 16	S. Yoshikawa and K. Irikura
	松代周辺における地盤の震動特性について	京大防災研究所年報, 第10号A	吉川宗治・後藤典俊 入倉孝次郎
	地盤調査における2, 3の問題(続)	同上, 第10号A	吉川宗治・後藤典俊 入倉孝次郎
1968	人為加振による地盤の震動特性について	同上, 第11号A	吉川宗治・後藤典俊 入倉孝次郎・赤松純平
	松代周辺における地盤の震動特性について(第2報)	同上, 第11号A	吉川宗治・入倉孝次郎
	地中地震計による地下構造決定法について	同上, 第11号A	吉川宗治・後藤典俊 赤松純平
1969	The Characteristics of Vibrations Produced by SH Type Torque in Multi-layer Elastic Ground	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 19	K. Irikura
	えびの, 吉松町における地盤の震動特性の調査	京大防災研究所年報, 第12号A	吉川宗治・後藤典俊 入倉孝次郎・赤松純平
	Experimental Study on the Vibrational Characteristics of Ground	Proc. 4th Conf. Earthq. Eng., A2	S. Yoshikawa and K. Irikura
1970	水平加振力による多層構造地盤の震動特性	京大防災研究所年報, 第13号A	
	水平加振力による粘性多層構造地盤の震動特性	第4回地震工学国内シンポジウム	

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1971	振源近傍における粘弾性地盤の振動特性について	京大防災研究所年報, 第14号A	
	<u>地球内部構造に関するもの</u>		
1954	弾性論と地球内部の弾性的性質 (1)	地震, 第7巻	
1955	弾性論と地球内部の弾性的性質 (2)	同上, 第8巻	
1956	On the Variation in Bulk Modulus/Density in the Mantle	Jour. Phys. Earth, Vol.4	
	Temperature Distribution within the Mantle	Ditto Vol.4	



芦田和男教授

芦田 和 男 教 授 略 歴

(学歴・職歴)

昭和3年11月27日 京都府福知山市に生まれる
 24年3月 姫路高等学校卒業
 24年4月 京都大学工学部土木工学科入学
 27年3月 京都大学工学部土木工学科卒業
 27年4月 建設省土木研究所奉職
 35年9月 主任研究員
 36年6月 京都大学工学部助教授
 36年12月 工学博士(京都大学)
 37年4月 京都大学防災研究所助教授
 40年4月 京都大学防災研究所教授
 46年4月 京都大学防災研究所附属穂高砂防観測所所長(平成4年3月まで)
 56年5月 京都大学防災研究所所長(昭和58年4月まで)
 平成4年3月 停年退官
 4年4月 京都大学名誉教授

(学会賞)

昭和58年3月 砂防学会赤木賞
 59年5月 土木学会著作賞

(学会等)

昭和54年6月 土木学会評議員(昭和56年5月まで)
 56年6月 土木学会理事
 56年 国際水理学会議移動床水理学部会委員(平成2年まで)
 57年 自然災害科学会理事(昭和57年より継続)
 60年 日－台防災科学セミナー日本側代表
 61年6月 土木学会関西支部副支部長(昭和62年5月まで)
 62年4月 自然災害科学総合研究班代表者(平成2年3月まで)
 62年6月 土木学会水理委員会委員長(平成元年5月まで)
 平成元年 日－台防災科学セミナー日本側代表
 2年6月 砂防学会会長(平成4年5月まで)
 その他、国際泥砂研究センター(International Research and Training Center on Erosion and Sedimentation, UNESCO)理事, など

(審議会・委員会)

国土庁 国土庁長官官房水資源開発審議会委員
 文部省 測地学審議会委員
 災害工学研究連絡委員会委員

	学術審議会専門委員, など
建設省	河川局土石流技術検討会委員 河川局総合土石流対策強化手法検討会委員 河川局総合土石流対策等技術検討会委員, など
科学技術庁	国立防災技術センター運営委員, など
地方自治体	京都府, 大阪府, 兵庫県, 京都市, 大阪市, 神戸市, などの自治体における河川・砂防技術に関連する委員等
公 団	財団法人防災研究協会の理事をはじめとして, 次のよう
財団法人	な法人の主催する委員会の委員等
社団法人	水資源開発公団, 河川環境管理財団, 河川情報センター, 国土開発技術研究センター, 砂防地すべり技術センター, 全国治水砂防協会, ダム技術センター, 全国防災協会, ダム水源地環境整備センター, リバーフロント整備センター, 日本林業技術協会

著 書

水災害の科学(矢野勝正編 分担執筆)	技報堂	(昭和46年)
ダム堆砂文献資料集成(編著)	河鍋書店	(昭和46年)
水工水理学(石原藤次郎編 分担執筆)	丸善	(昭和47年)
河川の土砂災害と対策(共著)	森北出版	(昭和58年)
流砂の水理学(吉川秀夫編)	丸善	(昭和60年)
扇状地の土砂災害(編著)	古今書院	(昭和60年)
黄河の治水と開発(監修)	古今書院	(平成元年)
Sediment Transport in Gravel Bed Rivers		
(Eds: R. D. Hey, J. C. Bathurst & C. R. Thorne) John Wiley & Sons (1987)		
Lecture Notes in Earth Science		
(Eds: A. Armanini & G. Di Silvio) Springer-Verlag (1991)		

芦田 和 男 教 授 研 究 業 績

論 文

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
	土砂の生産・流出		
1972	山地流域における出水と土砂流出 ——穂高砂防観測所の観測結果——	京大防災研究所年報, 15号B, pp. 349 - 361	高橋 保・奥村武信 道上正規・沢田豊明
1972	蒲田川および平湯川流域における陸水の分布 ——水質と崩壊の関連性について——	京大防災研究所年報, 15号B, pp. 363 - 370	沢田豊明
1972	山地流域における土砂流出の観測結果について	第9回災害科学総合シンポジウム講演 論文集, pp. 11 - 14	高橋 保・奥村武信 沢田豊明
1973	山地流域における出水と土砂流出 (2) ——穂高砂防観測所の観測結果——	京大防災研究所年報, 16号B, pp. 401 - 409	高橋 保・奥村武信 沢田豊明
1974	山地流域における出水と土砂流出 (3) ——穂高砂防観測所の観測結果——	京大防災研究所年報, 17号B, pp. 547 - 553	高橋 保・沢田豊明
1974	流出土砂量の予測法に関する研究	第11回災害科学総合シンポジウム講演 論文集, pp. 188 - 189	
1975	山地流域における出水と土砂流出 (4) ——穂高砂防観測所の観測結果——	京大防災研究所年報, 18号B, pp. 529 - 540	高橋 保・沢田豊明
1976	山地流域における出水と土砂流出 (5) ——穂高砂防観測所の観測結果——	京大防災研究所年報, 19号B - 2, pp. 345 - 360	高橋 保・沢田豊明
1976	Sediment Yield and Transport on a Mountainous Small Watershed	Bulletin of the Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., Vol. 26, part 3, pp. 119 - 144	Tamotsu Takahashi, Toyoaki Sawada
1977	豪雨時の流出土砂量に関する資料の解析研究	自然災害資料解析研究, 第4巻, pp. 85 - 91	奥村武信
1977	山地流域における出水と土砂流出 (6)	京大防災研究所年報, 20号B - 2, pp. 387 - 403	高橋 保・沢田豊明
1978	山地流域における出水と土砂流出 (7)	京大防災研究所年報, 21号B - 2, pp. 467 - 483	高橋 保・沢田豊明
1979	山地流域における土砂流出の観測研究	第23回水理講演会論文集, pp. 61 - 68	高橋 保・沢田豊明
1979	山地流域における出水と土砂流出 (8)	京大防災研究所年報, 22号B - 2, pp. 301 - 314	高橋 保・沢田豊明
1980	山地流域における出水と土砂流出 (9)	京大防災研究所年報, 23号B - 2, pp. 393 - 412	高橋 保・沢田豊明
1981	Impact of Steeplands Erosion on Human Activities	Erosion and Sediment Transport in Pacific Rim Steeplands, I.A.H.S. Publ. No.132, pp. 458 - 477	T. Takahashi
1981	Processes of Sediment Transport in Mountain Stream Channels	Erosion and Sediment Transport in Pacific Rim Steeplands, I.A.H.S. Publ. No.132, pp. 166 - 175	T. Takahashi・ T. Sawada
1981	山地流域における出水と土砂流出 (10)	京大防災研究所年報24号B - 2, pp. 223 - 237	高橋 保・沢田豊明
1982	山地河道の変動と砂礫の流出に関する研究	第26回水理講演会論文集, pp. 105 - 110	沢田豊明・高橋 保
1982	山地流域における出水と土砂流出 (11)	京大防災研究所年報25号B - 2, pp. 361 - 373	高橋 保・沢田豊明

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1983	山地流域における出水と土砂流出 (12)	京大防災研究所年報, 26号B - 2, pp. 303 - 314	高橋 保・沢田豊明
1983	Relationship between Channel Pattern and Sediment Transport in a Steep Gravel Bed River	Zeitschrift Geomorphologie, Suppl. -Bd.46, pp.55 - 66	Toyoaki Sawada・Tamotsu Takahashi
1984	山地流域における出水と土砂流出 (13)	京大防災研究所年報, 27号B - 2, pp. 317 - 330	高橋 保・沢田豊明
1985	SEDIMENT TRANSPORT IN MOUNTAIN BASINS	Proc. Int. Symp. on Erosion, Debris Flow and Disaster Prevention, pp. 139 - 144	Toyoaki Sawada・Tamotsu Takahashi
1985	山地流域における出水と土砂流出 (14)	京大防災研究所年報, 28号B - 2, pp. 309 - 323	高橋 保・沢田豊明
1986	山地流域における土砂生産	第30回水理講演会論文集, pp.205 - 210	沢田豊明
1986	山地流域における出水と土砂流出 (15)	京大防災研究所年報, 29号B - 2, pp. 291 - 307	高橋 保・沢田豊明
1987	山地流域における出水と土砂流出 (16)	京大防災研究所年報, 30号B - 2, pp. 393 - 406	高橋 保・沢田豊明
1988	土砂の生産・流出現象と災害	土木学会論文集, 第393号, II - 9, pp.21 - 32	
1988	山地流域における出水と土砂流出 (17)	京大防災研究所年報, 31号B - 2, pp. 395 - 409	沢田豊明・江頭進治
1989	山地流域における出水と土砂流出 (18)	京大防災研究所年報, 32号B - 2, pp. 471 - 486	沢田豊明
1990	山地流域における出水と土砂流出 (19)	京大防災研究所年報, 33号B - 2, pp. 281 - 292	沢田豊明
1991	山地流域における出水と土砂流出 (20)	京大防災研究所年報, 34号B - 2, pp. 209 - 220	沢田豊明
	斜面侵食, 河道侵食, ウォッシュロード		
1973	斜面侵食に関する実験的研究	京大防災研究所年報, 16号B, pp. 449 - 470	奥村武信・田中健二
1974	粘土分を含有する砂れき床の侵食と流出機構に関する研究	京大防災研究所年報, 17号B, pp. 571 - 584	田中健二
1975	裸地斜面における流路の形成過程に関する研究 (1) ——流路網の確率的シミュレーションを中心として——	京大防災研究所年報18号B, pp. 513 - 528	田中健二 沢井健二
1976	粘着性河床における流路横断面形状	第20回水理講演会論文集, pp. 97 - 102	沢井健二
1976	裸地斜面における流路の形成過程に関する研究 (2) ——流路の横断面形状——	京大防災研究所年報, 19号B - 2, pp. 329 - 343	沢井健二
1976	Erosion and Cross Section on the Cohesive Stream Bed	Bulletin of the Disaster Prevation Research Inst. Kyoto Univ., Vol. 26, Part3, pp.145 - 161	Kenji Sawai
1977	粘着性流路床における横断方向凹凸の発達過程	第21回水理講演会論文集, pp. 97 - 102	沢井健二
1977	裸地斜面における流路の形成過程に関する研究 (3) ——流路の3次元形状——	京大防災研究所年報, 20号B - 2, pp. 371 - 385	沢井健二
1977	粘着性流路の侵食と横断形状に関する研究	土木学会論文報告集, 第266号, pp. 73 - 86	沢井健二

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1977	Erosion and Cross Section on the Cohesive Stream Bed	Transactions of JSCE, Vol.9, pp. 278 - 281	Kenji Sawai
1979	内筒回転式土壌侵食試験法について	京大防災研究所年報, 22号B - 2, pp. 291 - 300	澤井健二
1979	粘性土の受食性試験法に関する研究	第16回自然災害科学総合シンポジウム 論文集, pp.213 - 214	澤井健二
1980	斜面侵食による濁度物質の生産・流出機構に関する研究	第24回水理講演会論文集, pp.135 - 141	江頭進治・金屋敷忠儀
1980	山地流域における濁度物質の生産・流出モデルに関する研究	第24回水理講演会論文集, pp.143 - 151	金屋敷忠儀・江頭進治
1980	河道における微細土砂の生産・流出機構に関する研究	京大防災研究所年報, 23号B - 2, pp. 413 - 431	江頭進治・金屋敷忠儀 小川義忠
1981	山地部河道における微細土砂濃度の推定法	水資源研究センター研究報告第1号, pp. 39 - 51	江頭進治
1981	微細土砂の流出解析法とその適用に関する研究	第25回水理講演会論文集, pp.481 - 487	江頭進治・金屋敷忠儀
1981	A Hydraulic Model for the Prediction of Wash Load in Mountainous Drainage Basins	Bull. Disast. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.31, No.283, pp. 171 - 209	Shinji Egashira・Tadayoshi Kanayashiki
1981	山地流域における微細土砂の生産場と流出過程に関する研究	京大防災研究所年報, 24号B - 2, pp. 239 - 250	江頭進治
1982	山地流域における侵食と流路変動に関する研究 (1) ——粘着性材料を含む砂礫の移動限界と流砂量——	京大防災研究所年報, 25号B - 2, pp. 349 - 360	江頭進治・加本 実
1983	山地河道の侵食機構に関する研究	第27回水理講演会論文集, pp.727 - 732	江頭進治・加本 実
1983	山地流域における侵食と流路変動に関する研究 (2) ——流路の側岸侵食機構——	京大防災研究所年報, 26号B - 2, pp. 353 - 361	江頭進治・加本 実
1985	On the Mechanism of Bank Erosion in Mountain Streams	Proc. Int. Symp. on Erosion, Debris Flow and Disaster Prevention, pp. 145 - 150	Shinji Egashira
1991	Sediment Yield in Bare Slopes	Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, Vol.9, No.1, pp.43 - 48	Toyoaki Sawada
1990	裸地斜面における土砂生産	水工学論文集, 34巻, pp.355 - 360	澤田豊明
	崩壊, 土石流, 高濃度流		
1978	土石流危険度の評価法に関する研究	京大防災研究所年報, 21号B - 2, pp. 423 - 439	高橋 保・澤井健二
1979	扇状地における洪水, 土砂災害の問題点	昭和53年度 河川災害シンポジウム, pp.15 - 19	高橋 保
1981	Delineation of Debris Flow Hazard Areas	Erosion and Sediment Transport in Pacific Rim Steeplands, I. A. H. S. Publ. No.132, pp.589 - 603	T. Takahashi・K. Sawai
1981	土石流の調節制御に関する研究 (2) ——流路彎曲部における土石流の流動——	京大防災研究所年報, 24号B - 2, pp. 251 - 263	高橋 保・新井宗之
1983	山腹崩壊土の流動機構に関する研究	京大防災研究所年報, 26号B - 2, pp. 315 - 327	江頭進治・大槻英樹

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1983	土石流の実態とそのメカニズム	土木学会誌, pp. 2 - 17	高橋 保
1984	斜面における土塊の滑動・停止機構に関する研究	京大防災研究所年報, 27号B - 2, pp. 331 - 340	江頭進治・神矢 弘
1985	長野県西部地震による御岳くずれの挙動	京大防災研究所年報, 28号B - 2, pp. 263 - 281	江頭進治
1985	斜面における土塊の抵抗則と移動速度	京大防災研究所年報, 28号B - 2, pp. 297 - 307	江頭進治・神矢 弘 佐々木浩
1985	高濃度流れに関する研究 (1) ——粘性係数と沈降速度——	京大防災研究所年報, 28号B - 2, pp. 367 - 377	山野邦明・神田昌幸
1985	The Dynamic Behavior of a Soil Block on Slopes	Proc. Int. Symp. on Erosion, Debris Flow and Disaster Prevention, pp. 249 - 254	Shinji Egashira
1986	Running-out Processes of the Debris Associated with the Ontake Land Slide	Natural Disaster Science, Vol. 8, No. 2, pp. 63 - 79	Shinji Egashira
1986	豪雨時の山腹崩壊に関する資料解析的研究	京大防災研究所年報, 29号B - 2, pp. 309 - 327	江頭進治・青井博志
1986	流動土塊の堆積機構に関する研究	京大防災研究所年報, 29号B - 2, pp. 329 - 342	江頭進治・神矢 弘 佐々木浩
1986	高濃度流れに関する研究 (2) ——流動機構——	京大防災研究所年報, 29号B - 2, pp. 361 - 375	山野邦明・神田昌幸
1987	Characteristics of Hyperconcentrated Flow	Proc. IAHR 22nd, Vol. 1, pp. 54 - 59	Kuniaki Miyamoto・Masayuki Kanda
1987	斜面崩壊の発生と土石流の流動機構	京大防災研究所年報, 30号B - 2, pp. 507 - 526	江頭進治・佐々木浩
1988	土石流の流動・堆積機構	京大防災研究所年報, 31号B - 2, pp. 411 - 422	江頭進治・矢島 啓
1988	水平管路における土砂輸送形態と流砂機構	京大防災研究所年報, 31号B - 2, pp. 489 - 505	江頭進治・中島智彦
1988	土石流の流動機構	第32回水理講演会論文集, pp. 485 - 490	江頭進治・佐々木浩
1989	Natural Disaster Mitigation Research in Japan	Proc. Japan-China (Taipei) Joint Seminar on Natural Hazard Mitigation, pp. 1 - 13	
1989	土石流の構成則に関する研究	京大防災研究所年報, 32号B - 2, pp. 487 - 501	江頭進治・矢島 啓 高濱淳一郎
1990	管路における土砂輸送機構	水工学論文集, 34巻, pp. 553 - 558	江頭進治・中島智彦
1991	自然災害における混相流——土石流——	混相流, 5巻3号, pp. 186 - 203	江頭進治
1991	連続体手法による掃流砂量式に関する研究	京大防災研究所年報, 34号B - 2, pp. 261 - 274	江頭進治・田野中新 高橋徹也
1991	火山地帯における多様な土砂災害 ——火砕流と泥流・土石流——	第23回砂防学会シンポジウム講演集, pp. 11 - 20	
流 砂			
1956	河床砂礫の掃流運搬に関する研究 (1)	土木研究所報告98号, pp. 13 - 30	佐藤清一・吉川秀夫
1958	Research on the Bed Load Transportation (I)	Journal of Research of PWRI, Vol. 3, pp. 3 - 13	Seiichi Sato・Hideo Kikkawa
1958	河川の土砂流送に関する研究	土木研究所報告101号, pp. 49 - 64	佐藤清一・吉川秀夫

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1959	河道の設計法 (2) ——河川の流送土砂の算定法と測定法——	土木技術資料1 - 5, pp. 159 - 165	
1967	浮流砂量に関する実験的研究	京大防災研究所年報, 10号B, pp. 63 - 79	道上正規
1970	浮遊砂に関する研究 (1) ——河床付近の濃度——	京大防災研究所年報, 13号B, pp. 233 - 242	道上正規
1971	混合砂礫の流砂量と河床変動に関する研究	京大防災研究所年報, 14号B, pp. 259 - 273	道上正規
1972	移動床流れの抵抗と掃流砂量に関する基礎的研究	土木学会論文報告集, 第206号, pp. 59 - 69	道上正規
1973	急こう配流れの限界掃流力に関する研究	第17回水理講演会論文集, pp. 79 - 84	大同淳之・高橋 保 水山高久
1973	Studies on Bed-Load Transport Rate in Open Channel Flows.	Proc. Int. Symp. on River Mechanics, Bangkok, Vol. 1, pp. 407 - 418	Masanori Michiue
1973	急勾配流れの抵抗と限界掃流力に関する研究	京大防災研究所年報, 16号B, pp. 481 - 494	大同淳之・高橋 保 水山高久
1974	浮遊砂	水工学シリーズ74 - A, 土木学会水理委員会, pp. A - 4 - 1 - A - 4 - 21	
1974	流砂量解析	昭和49年度土木学会関西支部研修会「河川の水理」pp. 11 - 30	
1977	急勾配水路における混合砂礫の移動限界掃流力に関する研究	新砂防, 103号, pp. 6 - 13	高橋 保・水山高久
1978	山地河川の掃流砂量に関する研究	新砂防, 第30巻, 第4号, pp. 9 - 17	高橋 保・水山高久
1981	山地河道における掃流砂の流送過程	第25回水理講演会論文集, pp. 507 - 514	沢田豊明・高橋 保
1982	非平衡な浮遊砂濃度の算定法に関する研究	第26回水理講演会論文集, pp. 153 - 158	岡部健士
1982	粒子の浮遊限界と浮遊砂量に関する研究	京大防災研究所年報, 25B - 2, pp. 401 - 416	岡部健士・藤田正治
1983	粒子の浮遊限界に関する研究	第27回水理講演会論文集, pp. 311 - 316	岡部健士・藤田正治
1983	粗面上の粒子の浮遊機構と浮遊限界に関する研究	京大防災研究所年報, 26号B - 2, pp. 363 - 377	藤田正治
1984	粗面上の粒子の浮遊機構	第28回水理講演会論文集, pp. 659 - 664	藤田正治・向井 健
1984	粒子の浮遊運動と河床付近の流れ	京大防災研究所年報, 27号B - 2, pp. 355 - 367	藤田正治
1985	粒子の浮遊運動のモデルと浮遊砂量	第29回水理講演会論文集, pp. 497 - 502	藤田正治・向井 健
1985	河床砂礫の浮上率と浮遊砂量	京大防災研究所年報, 28号B - 2, pp. 353 - 366	藤田正治・向井 健
1986	河床波上の浮遊砂の運動機構	京大防災研究所年報, 29号B - 2, pp. 473 - 486	藤田正治・向井 健
1986	Stochastic Model for Particle Suspension in Open Channels	Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, Vol. 4, No. 2, pp. 21 - 46	Masaharu Fujita
1986	河床粒子の浮遊機構とそのモデル化	土木学会論文集, 第375号, II - 6, pp. 79 - 88	藤田正治

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1986	平衡および非平衡浮遊砂量算定の確率モデル	土木学会論文集, 第375号, II - 6, pp. 107 - 116	藤田正治
1987	Sediment Transport in Steep Slope Flumes	Proc. ROC-Japan Joint Seminar on Water Resources Engineering, pp. 269 - 286	Shinji Egashira
1987	Mountain Torrent Erosion	Sediment Transport in Gravel-Bed Rivers, John Wiley & Sons, pp. 513 - 544	
1987	複断面直線水路における浮遊砂の流送・堆積機構	京大防災研究所年報, 30号B - 2, pp. 407 - 419	藤田正治・劉炳義 田中孝昌
1988	混合砂礫床の粒度分布変化と流砂の機構	京大防災研究所年報, 31号B - 2, pp. 423 - 441	江頭進治・西野隆之
1988	複断面直線水路における浮遊砂の流送・堆積機構 (2)	京大防災研究所年報, 31号B - 2, pp. 461 - 475	藤田正治・劉 炳義
1988	複断面直線河道における浮遊砂の流送過程	第32回水理講演会論文集, pp. 461 - 466	藤田正治・劉 炳義
1988	Suspended Load Transport in Compound Channels	6th Congress, Asian and Pacific Regional Div., IAHR, Vol. II - 2, pp. 75 - 82	Masaharu Fujita・ B.Y. Liu
1989	移動床のアーミング機構に関する研究	京大防災研究所年報, 32号B - 2, pp. 517 - 526	江頭進治・高村裕平
1990	Mechanism of Armoring Phenomena	Int. Jour. Sediment Res., Vol. 5, No. 1, pp. 49 - 55	Shinji Egashira
1990	エネルギー散逸機構に基づく流砂モデル	京大防災研究所年報, 33号B - 2, pp. 293 - 306	江頭進治・高濱淳一郎 田野中新
1991	連続体モデルに基づく流砂量式の誘導	水工学論文集, 35巻, pp. 441 - 446	江頭進治・高濱淳一郎 田野中新
	河床波, 流路・河床変動		
1963	断面変化部における河床変動に関する研究 (I)	京大防災研究所年報, 6号, pp. 312 - 327	
1964	断面変化部における河床変動に関する研究 (II) ——断面急拡部の砂堆の運動——	京大防災研究所年報, 7号, pp. 329 - 339	宮 井 宏
1965	砂澱に関する実験的研究 (第1報)	京大防災研究所年報, 8号, pp. 271 - 280	矢野勝正・田中祐一郎
1966	砂澱に関する実験的研究 (2) ——砂澱の形成に及ぼす側壁の影響——	京大防災研究所年報, 9号, pp. 445 - 456	田中祐一郎
1966	水路における砂礫堆の水理特性について	京大防災研究所年報, 9号, pp. 457 - 477	塩見靖国
1967	砂澱に関する実験的研究 (3)	京大防災研究所年報, 10号B, pp. 121 - 132	田中祐一郎
1968	富士川の河床変動に関する研究	京大防災研究所年報, 11号B, pp. 311 - 326	
1968	大戸川における 2, 3 の観測について	京大防災研究所年報, 11号B, pp. 267 - 280	村本嘉雄・田中祐一郎 塩入淑史
1969	河床変動に関する研究 ——下流端水位低下による河床変動——	京大防災研究所年報, 12号B, pp. 437 - 447	
1969	河床形態の変動特性に関する研究 ——その統計的構造について——	京大防災研究所年報, 12号B, pp. 449 - 462	奈良井修二

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1969	The Structure of Movable Bed Configuration	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 19, Part 1, No. 151, pp. 15 - 29	Shuji Narai
1970	河道の変動に関する研究 (1) ——流路の変動過程に関する実験——	京大防災研究所年報, 13号B, pp. 243 - 260	村本嘉雄・奈良井修二 塩入淑史
1970	浮流砂による河床変動について	京大防災研究所年報, 13号B, pp. 261 - 270	
1971	河道の変動に関する研究 (2) ——安定流路の形状と形成過程——	京大防災研究所年報, 14号B, pp. 275 - 297	村本嘉雄・奈良井修二
1971	移動床開水路の抵抗則に関する研究 (1)	京大防災研究所年報, 14号B, pp. 299 - 310	田中祐一郎
1972	移動床流れの河床形態	水工学シリーズ72 - A, 土木学会水理委員会, pp. A - 10 - 1 - A - 10 - 24	
1980	河床波の変形過程に関する実験的研究	京大防災研究所年報, 23号B - 2, pp. 457 - 473	澤井健二
1981	河床波の変形過程に関する実験的研究 (2)	京大防災研究所年報, 24号B - 2, pp. 283 - 295	澤井健二・加藤 均
1982	流量変化に伴う河床波の応答に関する研究	京大防災研究所年報, 25号B - 2, pp. 473 - 491	中川 一・加藤 均
1984	階段状河床形の形成機構と形状特性に関する研究	第28回水理講演会論文集, pp. 743 - 749	江頭進治・安東尚美
1984	階段状河床形の発生機構と形状特性	京大防災研究所年報, 27号B - 2, pp. 341 - 353	江頭進治・安東尚美
1985	山地河道における階段状河床形の形状特性	第29回水理講演会論文集, pp. 537 - 542	江頭進治・沢田豊明 西本直史
1985	山地河道における階段状河床形の構造	京大防災研究所年報, 28号B - 2, pp. 325 - 335	江頭進治・沢田豊明 西本直史
1986	階段状河床波と流砂の挙動	第30回水理講演会論文集, pp. 223 - 228	江頭進治・西本直史
1986	階段状河床波上における流砂機構	京大防災研究所年報, 29号B - 2, pp. 377 - 390	江頭進治・西本直史
1986	階段状河床波上の流れと抵抗則	京大防災研究所年報, 29号B - 2, pp. 391 - 403	江頭進治・西野隆之
1987	階段状河床波の形成・破壊過程における流砂機構	京大防災研究所年報, 30号B - 2, pp. 493 - 506	江頭進治・西野隆之 亀崎直隆
1988	蛇行水路における河床変動に関する研究	京大防災研究所年報, 31号B - 2, pp. 443 - 459	江頭進治・足立幸郎
1988	Roles of Step-Pool Morphology in Sediment Transportation	6th Congress, Asian and Pacific Regional Div., IAHR, Vol. II - 1, pp. 29 - 36	Shinji Egashira
1989	蛇行低水路を有する複断面流路における流れの特性と河床変動機構	京大防災研究所年報, 32号B - 2, pp. 527 - 551	江頭進治・劉 炳義 滝口将志
1990	複断面蛇行流の水理特性に関する研究	水工学論文集, 34巻, pp. 397 - 402	江頭進治・劉 炳義
1990	網状流路の流路変動と流砂量	京大防災研究所年報, 33号B - 2, pp. 241 - 260	江頭進治・里深好文 後藤隆之
1990	蛇行流路におけるSorting現象および平衡河床形状に関する研究	京大防災研究所年報, 33号B - 2, pp. 261 - 279	江頭進治・劉 炳義 梅本正樹

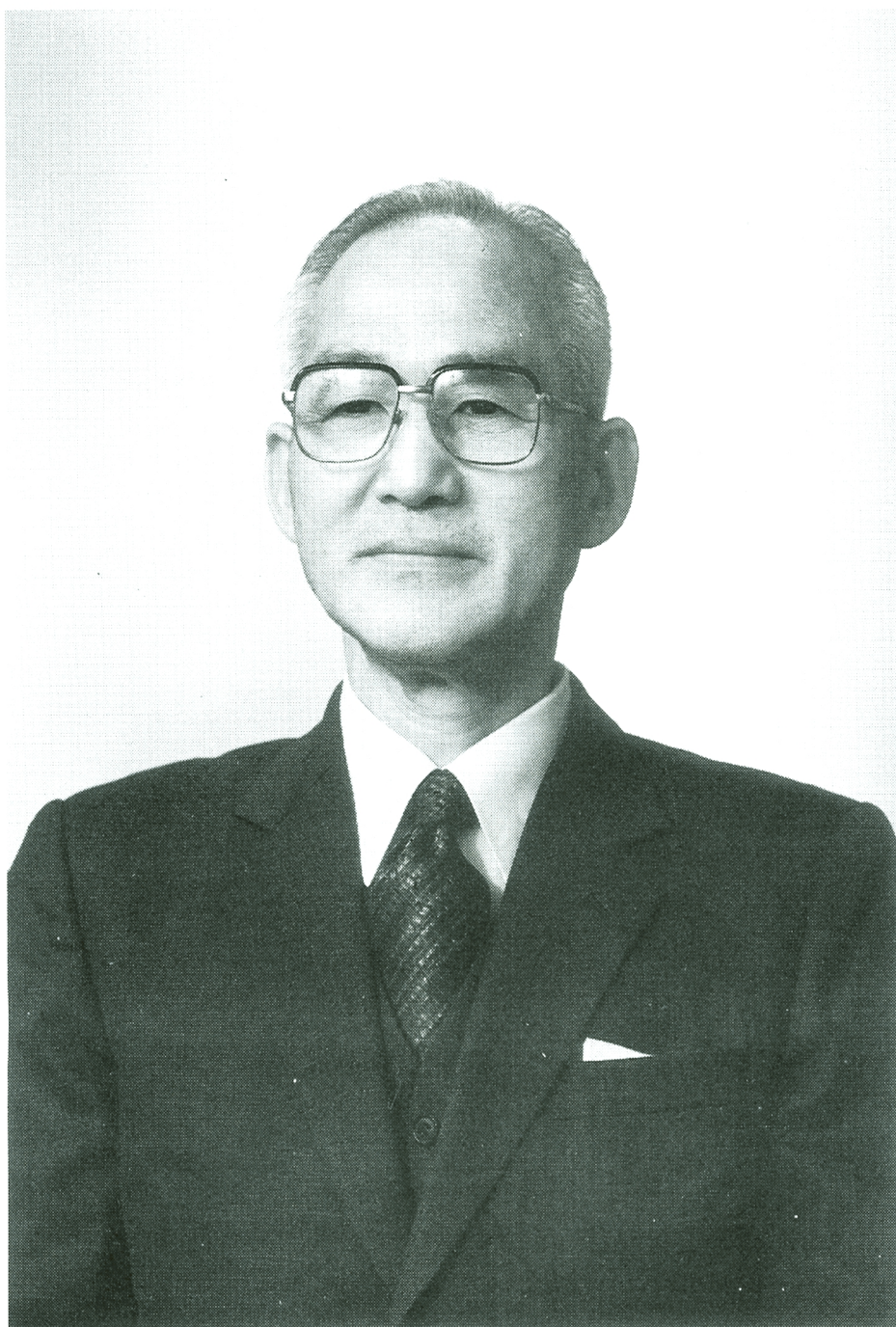
発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1991	Flow Resistance and Sediment Transportation in Streams with Steppool Bed Morphology	Lecture Notes in Earth Sciences, No. 37, SpringerVerlag, pp. 43 - 58	Shinji Egashira
1991	網状流路における流砂量	水工学論文集, 35巻, pp. 391 - 396	江頭進治・里深好文
1991	蛇行流路における流砂の分級および河床変動に関する数値解析	水工学論文集, 35巻, pp. 383 - 390	江頭進治・劉 炳義
1991	交互砂州河道の変動とその制御法	京大防災研究所年報, 34号B - 2, pp. 221 - 246	江頭進治・里深好文 劉 炳義・梅本正樹 河田利樹
1991	網状流路における混合砂礫の分級と流路変動	京大防災研究所年報, 34号B - 2, pp. 247 - 260	江頭進治・里深好文 後藤隆之・寺西直之
1991	流れの遷移を伴う一次元河床変動の数値解法	土木学会論文集, No. 434/II - 16, pp. 37 - 45	岡部健士
1991	Variation of Sediment Discharge in Braided Channels	Proc. IAHR 24th, Vol. A, pp. A - 443 - A - 450	Yoshifumi Satofuka・ Shinji Egashira
1991	Sediment Sorting and its simulation Model in Meander Streams	Proc. IAHR 24th, Vol. A, pp. A - 453 - A - 460	Bing-Yi Liu・ Shinji Egashira
	<u>洪水流・局所流</u>		
1957	断面変化を伴う水路の水理設計に関する研究	土木研究所報告102号, pp. 49 - 74	吉川秀夫・川端昭至
1958	洪水流に関する研究	土木研究所報告100号, pp. 145 - 160	伊藤 剛・佐藤清一 吉川秀夫・鈴木博安 土屋昭彦
1958	開水路断面急拡部における水理に関する研究 (1) —— 矩形水路幅急拡による損失水頭 ——	土木研究所報告101号, pp. 99 - 112	荒木民哉
1959	河道の設計法 (4) —— 河川の粗度について ——	土木技術資料1 - 7, pp. 264 - 267	
1960	開水路断面縮小部の流量計算法	土木技術資料2 - 3	
1960	開水路断面急拡部の水理に関する研究 (2) —— 断落部の水理 ——	土木研究所報告105号, pp. 133 - 155	
1961	洪水追跡用アナログ・コンピューター	土木技術資料3 - 1, pp. 8 - 18	吉川秀夫・小池長春
1962	開水路断面急拡部の水理とその適用に関する研究	京大防災研究所年報, 5号A, pp. 223 - 251	
1965	境界条件による洪水流の変形に関する研究 (第1報)	京大防災研究所年報, 8号, pp. 257 - 270	矢野勝正・高橋 保
1966	境界条件による洪水流の変形に関する研究 (第2報)	京大防災研究所年報9号, pp. 579 - 591	高橋 保
1967	On the Characteristics of Flood Waves under various Boundary Conditions	Bull. Disas. Prev. Res. Inst. Kyoto Univ., Vol. 16, Part 3, No. 115, pp. 23 - 47	Tamotsu Takahashi
1967	複断面水路における洪水流	京大防災研究所年報, 10号B, pp. 133 - 145	高橋 保・竹元忠嗣
1979	分岐部周辺における流れの水理特性について	京大防災研究所年報, 22号B - 2, pp. 491 - 506	川合 茂
1981	河川分流における流量・流砂量配分比に関する実験的研究	第25回水理講演会論文集, pp. 515 - 520	川合 茂
1989	固定床開水路分流における流量・流砂量配分比に関する実験的研究	土木学会論文集, 第405号/II - 11, pp. 139 - 146	川合 茂

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1991	横越流堰の流砂調節に関する実験的研究 貯水池堆砂, 密度流	水工学論文集, 35巻, pp. 507 - 512	江頭進治・川合 茂 安達慎也
1963	ダムの背砂に関する研究 (I) ——貯水池における砂堆の運動機構について——	京大防災研究所年報, 6号, pp. 254 - 265	矢野勝正・定道成美
1963	ダムの背砂に関する研究 (II) ——ダム上流部の河床変動について——	京大防災研究所年報, 6号, pp. 266 - 277	矢野勝正・田中祐一朗
1964	浮遊流砂による貯水池の堆砂に関する研究	京大防災研究所年報, 7号, pp. 348 - 363	矢野勝正・大同淳之 前田武志
1964	ダムの背砂に関する研究 (III) ——背砂の遡上について——	京大防災研究所年報, 7号, pp. 365 - 372	矢野勝正・田中祐一朗
1967	ダム堆砂に関する研究	京大防災研究所年報, 10号B, pp. 109 - 119	
1974	ダム堆砂に関する研究	京大防災研究所年報, 17号B, pp. 555 - 570	奥村武信
1975	泥水密度流に関する基礎的研究	土木学会論文報告集, 第237号, pp. 37 - 50	江頭進治
1975	密度躍層のある場における濁水の挙動に関する 研究 (1) ——躍層における拡散係数を中心と して——	京大防災研究所年報, 18号B, pp. 495 - 512	江頭進治
1976	非一様密度場における濁度物質の拡散と貯留機 構	第20回水理講演会論文集, pp. 173 - 178	江頭進治
1976	密度躍層のある場における濁水の挙動に関する 研究 (2) ——濁度物質の拡散と流出機構——	京大防災研究所年報, 19号B - 2, pp. 311 - 327	江頭進治
1977	成層化した貯水池における濁度物質の挙動	第21回水理講演会論文集, pp. 39 - 44	江頭進治
1977	密度躍層のある場における濁水の挙動に関する 研究 (3) ——流れと混合機構——	京大防災研究所年報, 20号B - 2, pp. 437 - 450	江頭進治
1977	Hydraulic Characteristics of Thermocline in Reservoirs	Proc. 17th Cong. IAHR, Vol. 2, pp. 33 - 40	Shinji Egashira
1978	ダム堆砂の排除に関する研究 ——渦動排砂管の水理機能——	京大防災研究所年報, 21号B - 2, pp. 441 - 453	高橋 保・千田 実
1978	成層密度流の流速分布則に関する研究	京大防災研究所年報, 21号B - 2, pp. 455 - 465	江頭進治
1979	ダム堆砂の排除に関する研究 (2) ——スリットダムの水理機能——	京大防災研究所年報, 22号B - 2, pp. 329 - 340	澤井健二
1979	成層密度流の流れの構造に関する研究	京大防災研究所年報, 22号B - 2, pp. 355 - 381	江頭進治
1979	密度躍層のある場における濁水の挙動に関する 研究 (4) ——貯水池濁度の解析手法を中心と して——	京大防災研究所年報, 22号B - 2, pp. 383 - 398	江頭進治・古谷 健
1979	密度流先端部の挙動に関する研究	第16回自然災害科学総合シンポジウム 論文集, pp. 239 - 242	江頭進治・中川 一
1980	Studies on the Structures of Density Strati- fied Flows	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 29, Part 4, No. 267, pp. 165 - 198	Shinji Egashira
1980	How to Predict Reservoir Sedimentation	Proc. Int. Symp. on River Sedimen- tation, Beijing China, pp. D11 - 1 - D11 - 30	

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1981	傾斜路床上における泥水塊の挙動に関する研究	京大防災研究所年報, 24号B - 2, pp. 265 - 282	江頭進治・中川 一
1982	貯水池堆砂の数値計算法に関する研究	京大防災研究所年報, 25号B - 2, pp. 389 - 400	岡部健士
1982	密度流先端部の解析における相似理論の適用性	京大防災研究所年報, 25号B - 2, pp. 567 - 613	江頭進治・中川 一
1984	堆砂過程計算法の実際貯水池への適用例	第28回水理講演会論文集, pp. 717 - 722	岡部健士
1987	貯水池堆砂の数値シミュレーション	京大防災研究所年報, 30号B - 2, pp. 457 - 474	藤田正治
<u>河 口 砂 州</u>			
1987	二次元水域への掃流砂の流出に伴う砂州の発達・変動過程に関する研究	第31回水理講演会論文集, pp. 731 - 736	澤井健二・謝 正倫
1987	二次元水域における砂州の発達・変動過程に関する研究——掃流砂による砂州の発達・変動過程に関する実験——	京大防災研究所年報, 30号B - 2, pp. 475 - 491	澤井健二・謝 正倫
1988	河口部における河川流出土砂による三角州の発達機構に関する研究	第32回水理講演会論文集, pp. 221 - 226	澤井健二・謝 正倫
1988	二次元水域における砂州の発達・変動過程に関する研究 (2) ——浮遊砂および沿岸流の及ぼす影響に関する実験——	京大防災研究所年報, 31号B - 2, pp. 477 - 487	澤井健二・謝 正倫
1988	Mechanism of Development of Alluvial Fan in an Estuary Caused by Bed Load	6th Congress, Asian and Pacific Regional Division, Vol. II - 1, pp. 131 - 138	Cheng Lun Shieh・Kenji Sawai
1989	二次元水域における砂州の発達・変動過程に関する研究 (3) ——三角州の発達・変動過程のシミュレーション——	京大防災研究所年報, 32号B - 2, pp. 553 - 570	澤井健二・謝 正倫
1989	Experimental Study on the Process of Delta Formation in an Estuary	Proc. 4th Int. Symp. on River Sedimentation, pp. 787 - 794	Kenji Sawai・Cheng Lun Shieh
<u>河川・砂防構造物の水理</u>			
1954	水制に関する研究 (1) ——水制の周りの水の流れについて——	土木研究所報告90号, pp. 11 - 26	吉川秀夫・杉本昭典
1956	水門の水理に関する研究 (1) ——江戸川行徳水門の機能設計——	土木研究所報告97号, pp. 39 - 63	吉川秀夫・馬場 享
1957	Study of Groins (1) ——Preliminary study of flow in the vicinity of groins——	Journal of Research of PWRI, Vol. 2, pp. 85 - 92	Hideo Kikkawa
1958	河川の分流に関する研究 (5) ——猪名川分流の機能設計——	土木研究所報告103号, pp. 1 - 16	佐藤清一・吉川秀夫 朝倉一満
1959	砂防ダム (幅厚ぜき) の流量計算法	土木技術資料1 - 3, pp. 102 - 104	吉川秀夫
1959	幅厚ぜきの流量係数に関する研究	土木研究所報告103号, pp. 123 - 137	吉川秀夫・土屋昭彦
1960	河川の分流に関する研究 (7) ——渡良瀬川ショートカットの水理模型実験——	土木研究所報告108号, pp. 59 - 88	吉川秀夫・金子 保
1960	河川分流の設計法 (2)	土木技術資料2 - 4, pp. 129 - 133	土屋昭彦・神谷隆太郎
1960	水制に関する研究	土木研究所報告107号, pp. 61 - 153	秋草 勲・吉川秀夫 坂上義次郎・土屋昭彦

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1960	狩野川放水路河口部模型実験報告	土木研究所報告, pp. 115 - 142	吉川秀夫・丸田和也 丸野 喬
1961	路面集水マスの水理設計	土木技術資料3 - 1, pp. 27 - 32	高橋脩一・吉川秀夫
1961	水門の流出量の計算法	土木技術資料3 - 6,	
1961	Hydraulics of Diversion Tunnel —Hydraulics of Transition—	Journal of Research of PWRI, Vol. 4, pp. 6 - 17	Takeshi Ito
1961	コルゲート・パイプの流量計算法	土木技術資料3 - 4, pp. 181 - 184	吉川秀夫
1961	Study on the Discharge Coefficient of Broad-Crested Weirs	Journal of Research of PWRI, Vol. 5	H. Kikkawa・ A. Tsuchiya
1975	流路工計画に関する水理学的研究	新砂防, 第28巻2号, pp. 9 - 16	高橋 保・水山高久
1980	土石流の調節制御に関する研究 —立体格子型砂防堰堤の水理機能—	京大防災研究所年報, 23号B - 2, pp. 433 - 441	高橋 保
1985	砂防ダムの侵食防止機能に関する実験的研究	京大防災研究所年報, 28号B - 2, pp. 337 - 351	江頭進治・何 智武 山野邦明・村岡 猛
1987	砂防ダムの流出土砂調節機能に関する研究	京大防災研究所年報, 30号B - 2, pp. 421 - 439	江頭進治・村岡 猛 里深好文
1987	透過性砂防ダムの土石流調節機構	京大防災研究所年報, 30号B - 2, pp. 441 - 456	江頭進治・栗田三津雄 荒牧 浩
1988	砂防ダム堆砂域の侵食と流路の形成機構	京大防災研究所年報, 31号B - 2, pp. 507 - 523	江頭進治・樽屋啓之 里深好文・高村裕平
1988	透過性砂防ダムの土石流調節機構	第32回水理講演会論文集, pp. 491 - 496	江頭進治・栗田三津雄 荒牧 浩
1989	床止めの侵食制御機構に関する研究	京大防災研究所年報, 32号B - 2, pp. 503 - 515	江頭進治・里深好文
1975	洪水・土砂災害 小豆島内の土石流による河道侵食と土砂流出	昭和49年7月集中豪雨災害の調査研究 (代表 矢野勝正), 自然災害総合研究 班, pp. 114 - 117	奥村武信・江頭進治
1976	台風5号, 6号による仁淀川流域の土砂流出災害に関する研究	昭和50年8月風水害に関する調査研究 (代表 矢野勝正), 自然災害総合研究 班, pp. 132 - 140	高橋 保・奥村武信 横山康二
1977	小豆島の土砂災害について	昭和51年9月台風17号による災害の調査研究 (代表 中島暢太郎), 自然災害 総合研究班, pp. 109 - 115	高橋 保・沢田豊明 江頭進治・沢井健二
1979	Characteristics of Heavy Rainfall and Debris Hazard	Jour. Natural Disaster Science, Vol. 1, No. 2, pp. 41 - 55	Setsuo Okuda・ Yukio Gocho・ Kazuo Okunishi・ Toyoaki Sawada・ Koji Yokoyama
1980	火山灰の流出および御岳湖における土砂の挙動に関する研究	御岳山1979年火山活動および災害の調査研究報告 (代表 青木治三), 自然災害 総合研究班, pp. 115 - 123	江頭進治
1984	山腹崩壊と崩土の流出	昭和58年7月山陰豪雨災害の調査研究 (代表 角屋睦), 自然災害総合研究班, pp. 24 - 32	高橋 保・江頭進治 沢井健二

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1985	御岳くずれにおける崩土の挙動	1984年長野県西部地震の地震および災害の総合調査（代表 飯田汲事），自然災害総合研究班，pp. 199 - 205	江頭進治
1988	1988年 7 月島根・広島豪雨災害の調査研究	京大防災研究所年報，32号A，pp. 1 - 19	
1989	崩壊・土石流の発生と土砂災害の危険範囲	1988年 7 月島根・広島豪雨災害の調査研究（代表 芦田和男），自然災害総合研究班，pp. 8 - 21	江頭進治



角 屋 睦 教 授

角 屋 睦 教 授 略 歴

昭和4年1月17日	三重県に生まれる
24年3月	三重農林専門学校農業土木科卒業
24年4月	京都大学農学部入学
27年3月	京都大学農学部卒業
27年4月	京都大学大学院研究奨学生前期課程入学
30年3月	京都大学大学院研究奨学生前期課程終了
30年4月	京都大学大学院入学
30年11月	京都大学大学院退学
30年12月	大阪府立大学農学部助手
33年4月	宇都宮大学農学部助教授
33年11月	宇都宮大学農学部退職
34年3月	京都大学防災研究所助手
35年4月	京都大学防災研究所助教授
35年12月	農学博士(京都大学)
39年1月	京都大学防災研究所教授
平成4年3月	京都大学停年退官
4年4月	京都大学名誉教授
	京都職業訓練短期大学校長

角屋睦教授研究業績

論 文

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
	水文統計に関する論文		
1953	計画洪水量に関する順序統計学的考察	農業土木研究, 第21巻, 第3号	沢田敏男
1955	計画降雨量に関する順序統計学的考察	農業土木研究, 第22巻, 第6号	
1954	水文統計学における2, 3の問題	コンクリートダム, 第6号	
1956	極値分布とその一解法	農業土木研究, 第23巻, 第6号	
1956	The Extreme-Value Law and its Some Solutions for Engineering Problems	Proceedings of the 6th Japan National Congress for Applied Mechanics	
1957	農耕地排水計画における計画雨量について	農業土木研究, 第24巻, 第8号	
1958	線形実験式の定数について	農業土木研究, 第25巻, 第7号	
1959	水文量のPLOTING POSITIONについて	京大防災研年報, 第3号	
1961	雨量分布とその年最大値の分布	京大防災研年報, 第4号	
1962	対数正規分布の適用範囲, 定数について	農業土木研究別冊, 第3号	
1962	極値(最大値)分布の一実用解	農業土木研究別冊, 第3号	小池達男
1962	異常(確率)水文量とデータの棄却検定	農業土木研究別冊, 第3号	
1964	Application of Extreme Value Distribution in Hydrologic Frequency Analysis	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., No.66	
1965	降水量にみられる長期的変動について	京大防災研年報, 第8号	
1967	A Stochastic Consideration on Variation of Hydrologic Quantities	Proceedings of the International Hydrology Symposium, Fort Collins	
1970	日雨量系列の模擬発生と内水排除計画への適用 ——山科川下流部の内水(4)——	京大防災研年報, 第13号B	
1970	二変数ガンマ分布とその適用に関する研究(1) ——二変数指数分布の基礎理論——	京大防災研年報, 第13号B	
1970	松江地方の降雨特性と豪雨の模擬発生について	農業土木学会論文集, 第34号	田中礼次郎
1971	Two-variate Exponential Distribution and Its Numerical Table for Engineering Application	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 20, Part 3, No. 178	M. Nagao
1971	二変数ガンマ分布とその適用に関する研究(2) ——二変数ガンマ分布の母数推定法——	京大防災研年報, 第14号B	長尾正志
1971	二変数ガンマ分布とその適用に関する研究(3) ——二変数指数分布の数値表——	京大防災研年報, 第14号B	長尾正志
1971	二変数ガンマ分布とその適用に関する研究(4) ——短時間降雨の模擬発生——	京大防災研年報, 第14号B	長尾正志
1972	二変数ガンマ分布とその適用に関する研究(5) ——二変数指数分布の母数推定に関する数値実験的検討——	京大防災研年報, 第15号B	長尾正志・白波瀬正道
1973	湖水位資料の模擬発生モデル	農業土木学会論文集, 第44号	田中礼次郎
1973	降雨資料の補充整備と模擬発生モデル	農業土木学会論文集, 第44号	田中礼次郎
1973	機械排水計画規模決定に関するシミュレーション的研究	農業土木学会論文集, 第46号	田中礼次郎・福島 展
1979	豪雨のDAD解析と洪水量極値推定への応用	自然災害資料解析6	永井明博
1979	洪水比流量曲線へのアプローチ	京大防災研年報, 第22号B-2	永井明博

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1979	降雨強度式に関する研究	農業土木学会論文集, 第83号	田中礼次郎
1983	長時間降雨強度曲線の一表現法	農業土木学会論文集, 第104号	松田誠祐
1984	仁淀川流域の豪雨出水の統計的特性	京大防災研年報, 第27号B-2	中村敬二
	<u>流出モデルに関する論文</u>		
1983	単位図決定の一方法について	土とコンクリート, 第12・13合併号	牧野俊衛
1958	雨量より洪水量算定の一方法について ——津風呂ダムにおける計画洪水量決定の方法 順序について——	土とコンクリート, 第12・13合併号	
1965	山科川流域の流出特性について ——山科川下流部の内水(1)	京大防災研年報, 第8号	
1966	山地小流域河川の低水解析(1)	京大防災研年報, 第9号	豊国永次・大橋行三
1966	水田地帯における流出解析について	京大防災研年報, 第9号	
1967	山地小流域河川の低水解析(2)	京大防災研年報, 第10号B	
1967	An Approach to Mechanisms of Ground- water Flow and Rainfall Loss	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.16, Part 3, No.114	豊国永次 豊国永次・丈達俊夫
1967	Analysis of Groundwater Flow and Rain- fall Loss	Proceedings of the International Hydrology Symposium, Fort Collins	
1969	米国における水文学の研究動向	京大防災研年報, 第12号B	
1971	市街地域の雨水流出特性	京大防災研年報, 第14号B	岡 太郎
1973	Predictive Study on Urbanizing Effect of Drainage Basin on Flood Runoff	FLOODS and DROUGHTS (Pro- ceedings of the Second International Symposium in Hydrology), WRP, Fort Collins	
1973	Long Term Runoff Analysis by a Concep- tual Physical Model	FLOODS and DROUGHTS (Pro- ceedings of the Second International Symposium in Hydrology), WRP, Fort Collins	
1974	裸地斜面域における雨水の浸入と地下水流出 (1) ——傾斜ライシメータと土壌特性——	京大防災研年報, 第17号B	岡 太郎
1974	裸地斜面域における雨水の浸入と地下水流出 (2) ——流出モデルへのアプローチ——	京大防災研年報, 第17号B	岡 太郎
1975	丘陵地斜面における雨水の浸入・流出過程	京大防災研年報, 第18号B	岡 太郎
1976	丘陵地斜面域における雨水の浸入・流出過程(2)	京大防災研年報, 第19号B-2	岡 太郎
1976	中小河川の洪水到達時間	京大防災研年報, 第19号B-2	福島 晟
1977	Concentration Time of Flood Runoff in Smaller River Basins	Proceedings of the Third Interna- tional Hydrological Symposium	A. Fukushima
1978	丘陵山地流域モデルと洪水流出モデル	京大防災研年報, 第21号B-2	福島 晟・佐合純造 永井明博
1978	洪水流出モデルの適用比較——丘陵山地流域及 び市街地流域を対象として——	京大防災研年報, 第21号B-2	
1979	流出モデル定数の最適化手法	京大防災研年報, 第22号B-2	永井明博
1980	宅地域の雨水浸透と流出特性	京大防災研年報, 第23号B-2	岡 太郎・野口美具
1980	タンクモデルの最適同定法に関する基礎的検討	京大防災研年報, 第23号B-2	永井明博
1980	長期流出タンクモデルの実用的同定法とその考 察	京大防災研年報, 第23号B-2	永井明博・中嶋章雅 鈴木克英
1981	洪水流出モデルの最適定数	京大防災研年報, 第24号B-2	永井明博
1982	貯留関数法の総合化	京大防災研年報, 第25号B-2	永井明博・杉山博信 鈴木克英

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1983	長短期両用貯留型流出モデルとその最適同定	京大防災研年報, 第26号B-2	永井明博
1983	自記水位計用雨量併記装置の試作	京大防災研年報, 第26号B-2	角田吉弘
1984	山腹斜面における雨水の流下形態	農業土木学会論文集, 第114号	杉山博信
1985	都市化に伴う流出の変化	土木学会論文集, 第363号, II-4	
1987	表面流出モデルの準最適同定法	農業土木学会論文集, 第127号	永井明博
1987	土地科用形態と出水特性 ——ゴルフ場・放牧草地の場合——	京大防災研年報, 第30号B-2	四方田穆・永井明博
1987	長短期流出共用modelとdam流入量予測への応用	韓国農工学会誌29-3	
1987	貯留関数モデルの準最適同定法	農業土木学会論文集, 第131号	永井明博
1988	不確定な水位流量曲線の修正の試み	第32回水理講演会論文集	李淳赫・田中丸治哉
1988	貯留関数モデル定数に関する一考察	農業土木学会論文集, 第133号	杉山博信
1988	総合貯留関数モデルに関する研究	農業土木学会論文集, 第134号	杉山博信・永井明博
1988	Flood Runoff Forecasting with Long and Short Terms Runoff Model	Proceedings of the 6th Congress Asian and Pacific Regional Division-International Association for Hydraulic Research (APD-IAHR)	H. Tanakamaru
1988	長短期流出両用モデルの開発改良研究	農業土木学会論文集, 第136号	永井明博
1988	長短期流出両用モデルの永源寺ダム流域への適用と考察	農業土木学会論文集, 第137号	永井明博
1988	土地利用変化に伴う流出特性の変化	農業土木学会誌, 第56巻, 第11号	
1989	愛知川上流域への長短期流出両用モデルの適用と実時間洪水予測	水資源センター研究報告, 第9号	田中丸治哉・永井明博 金口正幸
1989	Long and Short Terms Runoff Model and its Application to Real-Time Flood Forecasting	Proceedings of the Pacific International Seminar on Water Resources Systems	H. Tanakamaru
1991	気温上昇が流域水循環に与える影響	京大防災研年報, 第34号B-2	田中丸治哉
	洪水追跡に関する論文		
1962	農地表面流の抵抗係数に関する一実験的研究	京大防災研年報, 第5号A	今尾昭夫
1963	緩こう配流れに関する研究(1)——滑面水路におけるせき上げ流れに関する実験的研究——	京大防災研年報, 第6号	今尾昭夫
1963	河川沿い農地災害軽減方式の一事例 ——日高川沿岸農地の災害復旧計画に関する水理模型実験——	京大防災研年報, 第6号	今尾昭夫
1964	入江干拓地区の内水問題 ——2次的内水災害の研究(1)——	京大防災研年報, 第7号	豊国永次・大橋行三
1964	Wall Shearの直接測定 ——緩こう配流れに関する研究(2)——	京大防災研年報, 第7号	余越正一郎
1965	Direct Measurement of Bottom Shear Stresses in Open Channel Flows	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.15, Part 3	S. Yokoshi
1966	山科川下流部の内水の実態について ——山科川下流部の内水(2)——	京大防災研年報, 第9号	豊国永次
1973	昭和47年7月豪雨による東大阪水害とその考察	京大防災研年報, 第16号B	岡 太郎
1974	低平地帯の雨水流出モデルに関する基礎的研究 ——ポンプ排水地域を対象として——	京大防災研年報, 第17号B	早瀬吉雄・岡 太郎
1975	低平水田地帯の雨水流出解析	京大防災研年報, 第18号B	早瀬吉雄・岡 太郎
1975	昭和49年7月豪雨による伊勢市水害の発生過程	京大防災研年報, 第18号B	早瀬吉雄・岡 太郎

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1976	昭和50年8月台風5号豪雨による日下川波介川流域の水害とその考察	京大防災研年報, 第19号B-2	永井明博
1976	不定流の数値計算法に関する考察——低平水田地帯の流出解析に関する研究(I)——	農業土木学会論文集, 第65号	早瀬吉雄
1977	分合流を含む不定流計算法——低平水田地帯の流出解析に関する研究(II)——	農業土木学会論文集, 第67号	早瀬吉雄
1977	7617号台風による日下川波介川流域の水害とその考察	京大防災研年報, 第20号B-2	永井明博・岡 太郎
1977	昭和51年台風17号による鏡川洪水災害とその考察	京大防災研年報, 第20号B-2	岡 太郎・永井明博
1977	ポンプ排水主体低平水田地帯の雨水流出モデル——低平水田地帯の流出解析に関する研究(III)——	農業土木学会論文集, 第70号	早瀬吉雄
1977	自然排水主体低平水田地帯の雨水流出モデル——低平水田地帯の流出解析に関する研究(IV)——	農業土木学会論文集, 第72号	早瀬吉雄
1978	巨椋低平地流域の流出解析とその考察——低平水田地帯の流出解析に関する研究(V)——	農業土木学会論文集, 第73号	早瀬吉雄・岡 太郎
1984	昭和58年7月山陰豪雨災害	京大防災研年報, 第27号A	岡 太郎・増本隆夫 田中礼次郎・今尾昭夫 福島 晨 増本隆夫・岡 太郎
1985	昭和58年7月豪雨による島根西部の水害とその考察	自然災害科学4-1	
1985	昭和58年7月豪雨による浜田・益田川の氾濫過程	自然災害科学4-1	
	<u>都市化と水害ポテンシャルに関する論文</u>		
1962	内水災害に関する諸問題について	京大防災研年報, 第5号A	矢野勝正
1968	流域の都市化に伴う内水の変化について——山科川下流部の内水(3)	京大防災研年報, 第11号B	豊国永次
1969	田川流域の地下水概況——田川流域の地下水に関する研究(1)——	京大防災研年報, 第12号B	大橋行三・岡 太郎 豊国永次・福島 晨
1969	湧水の挙動に関する研究——田川流域の地下水に関する研究(2)——	京大防災研年報, 第12号B	岡 太郎・豊国永次
1970	扇状地地下水の平面的挙動——田川流域の地下水に関する研究(3)——	京大防災研年報, 第13号B	岡 太郎
1971	横大路低平地帯の内水の現状と将来予測	京大防災研年報, 第14号B	岡 太郎・豊国永次 福島 晨
1977	都市化と水害	京大防災研年報, 第20号A	早瀬吉雄
1979	巨椋低平流域の都市化と内水	京大防災研年報, 第22号B-2	
1980	巨椋低平流域の都市化と内水(2)——現状と将来——	京大防災研年報, 第23号B-2	早瀬吉雄・西村昌之
1981	巨椋低平流域の都市化と内水(3)——水害危険度の変化——	京大防災研年報, 第24号B-2	早瀬吉雄
1981	巨椋低平流域の都市化と内水(4)——将来の洪水対策試案——	京大防災研年報, 第24号B-2	早瀬吉雄
1982	巨椋低平流域の都市化と内水(5)——出水規模を考慮した洪水対策試案——	京大防災研年報, 第25号B-2	早瀬吉雄
1983	新住宅地の不透水面率	京大防災研年報, 第26号B-2	早瀬吉雄
1983	巨椋低平流域の都市化と内水(6)——農地のゾーニングと洪水対策試案——	京大防災研年報, 第26号B-2	
1984	宇治川流域の都市化と内水	京大防災研年報, 第27号B-2	永井明博・中村敬二

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1986	宇治川流域の都市化と内水 (2) ——遊水池容量とポンプ容量——	京大防災研年報, 第29号B-2	永井明博
1987	巨椋低平流域の都市化と内水 (7) ——昭和61年7月豪雨による氾濫とその考察——	京大防災研年報, 第30号B-2	増本隆夫
1988	巨椋低平流域の都市化と内水 (8) ——幹線道路群の集中とその波及効果——	京大防災研年報, 第31号B-2	増本隆夫
1988	都市化に伴う流出の変化 ——巨椋低平流域における事例——	農業土木学会誌, 第56巻第11号	早瀬吉雄
1990	巨椋低平流域の都市化と内水 (9) ——内水排除施設の規模配置に関する一考察——	京大防災研年報, 第33号B-2	田中丸治哉・熊谷幸樹
1990	排水機場前池容量に関する基礎的研究	京大防災研年報, 第33号B-2	近森秀高
1991	巨椋低平流域の都市化と内水 (10) ——古川を中心とした内水排除施設——	京大防災研年報, 第34号B-2	近森秀高
<u>講習会テキスト・講座等</u>			
1964	水文統計論	土木学会水理委員会水工学シリーズ, 64-02	
1974	都市化と流出	土木学会水理委員会水工学シリーズ, 74-A2	
1975	洪水流出	土木学会関西支部講習会テキスト	高棹琢馬
1976	開発と排水計画	農業土木学会中四国支部研修会テキスト	
1976	降雨流出と用水計画	農業土木学会京都支部研修会テキスト	
1980	出水解析の手法	農業土木学会地方講習会テキスト	
1980	ダム設計洪水流量について	農業土木学会京都支部研修会テキスト	
1979	流出解析手法 (その1) ——1. 雨水流出現象とその計測・解析——	農業土木学会誌, 第47巻, 第10号	
1979	流出解析手法 (その2) ——単位図法とその進展 (1)	農業土木学会誌, 第47巻, 第11号	
1979	流出解析手法 (その3) ——単位図法による洪水流出解析——	農業土木学会誌, 第47巻, 第12号	
1980	流出解析手法 (その4) ——重回帰モデルによる長期流出解析——	農業土木学会誌, 第48巻, 第2号	伊藤喜一
1980	流出解析手法 (その6) ——3. 雨水流法—表面流出モデルによる洪水 流出解析——	農業土木学会誌, 第48巻, 第6号	
1980	流出解析手法 (その7) ——中間流出モデルによる洪水流出解析——	農業土木学会誌, 第48巻, 第7号	
1980	流出解析手法 (その8) ——洪水到達時間と合理式——	農業土木学会誌, 第48巻, 第8号	
1980	流出解析手法 (その9) ——補給能モデルによる地下水流出解析——	農業土木学会誌, 第48巻, 第9号	
1980	流出解析手法 (その10) ——4. 貯留法 - 貯留関数法による洪水流出解析——	農業土木学会誌, 第48巻, 第10号	永井明博
1980	流出解析手法 (その11) ——SDFP法による貯留関数の最適同定——	農業土木学会誌, 第48巻, 第11号	永井明博
1980	流出解析手法 (その12) ——タンクモデルとSP法による最適同定——	農業土木学会誌, 第48巻, 第12号	永井明博

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1981	流出解析手法（その13） ——5. 低平地流出・タンク解析——	農業土木学会誌，第49巻，第3号	早瀬吉雄
1981	流出解析手法（その14） ——低平地タンクモデルによる洪水解析——	農業土木学会誌，第49巻，第4号	早瀬吉雄
1981	流出解析手法（その15・最終講） ——6. 残された問題 - 土地利用変化に伴う流出変化——	農業土木学会誌，第49巻，第6号	
1990	都市化と洪水 ——コンクリート砂漠にあふれる水——	京大防災研究所公開講座，都市の防災，第1回	
	その他		
1970	線形，非線形（流出系）	農業土木学会誌，第37巻，第10号	矢野勝正
1972	災害科学研究の現状	学術月報，Vol. 24, No. 10	
1972	農地と防災	農業土木学会誌，第40巻，第10号	
1984	DAD解析	農業土木学会誌，第52巻，第12号	
1986	都市化と洪水	天気，第33巻，第3号	
1985	農地開発と防災	農地保全の研究，第6号	
1986	農地開発と防災	農業土木学会誌，第54巻，第6号	
1989	Introduction to Comparative Agricultural Engineering	Irrigation Engineering and Rural Planning, No. 15	

著 書

出版年	書 名	出 版 社	共 著 者
1962	開水路の水理学（by V.T. Chow）第18章 漸変非定常流	丸 善	石原藤次郎訳
1963	極値統計学（by E. J. Gumbel）第7章 第2及び第3漸近	広川書店	河田竜夫・岩井重久・加瀬滋男監訳
1963	水理公式集 昭和38年度増補改訂版	技 報 堂	土木学会
1964	防災ハンドブック 第1編 3章 資料解析法，第1編 6章 施工管理	技 報 堂	防災ハンドブック編集委員会編
1969	農業土木ハンドブック 改訂三版	丸 善	農業土木学会
1971	水災害の科学，3.2 計画の規模，3.5 内水処理計画，第7章 堤内地災害，7.1 堤内地水災害の形態，7.4 内水はん濫	技 報 堂	矢野勝正 編著
1971	水理公式集 昭和46年改訂版	技 報 堂	土木学会
1972	水利施設工学 I 基礎，施設計画の基礎，2 資料の整理と模擬発生，5 施工品質管理，6 安全率	朝倉書店	沢田敏男・近森邦英・浅井喜代治・長谷川高士・青山咸康
1972	水工水理学，10.3 水文量の時系列構造，10.4 確率的シミュレーション	丸 善	石原藤次郎編
1974	土木工学ハンドブック	技 報 堂	土木学会
1979	農業土木ハンドブック 改訂四版	丸 善	農業土木学会
1981	巨椋池干拓誌 巨椋地域の都市化と水環境		巨椋池土地改良区
1986	農業土木ポケットブック，15章 水文，15.2 流出，15.4 水文統計	講 談 社	白井清恒監修
1987	農業水文学実習ガイド		農業土木学会



三 雲 健 教 授

三 雲 健 教 授 略 歴

昭和 4 年 3 月 23 日	京都市に生まれる
24 年 3 月	第三高等学校理科修了
24 年 7 月	京都大学理学部入学
28 年 3 月	京都大学理学部地球物理学科卒業
28 年 4 月	京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻入学
30 年 3 月	京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程修了
30 年 4 月	京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻博士課程進学
33 年 3 月	京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻博士課程退学
33 年 4 月	京都大学理学部助手
35 年 3 月	京都大学理学博士学位取得
35 年 4 月	京都大学防災研究所助教授(地殻変動研究部門)
48 年 5 月	京都大学防災研究所教授(地震予知計測研究部門)
平成 2 年 6 月	京都大学防災研究所教授(地震予知研究センター)
4 年 3 月	京都大学停年退官
4 年 4 月	京都大学名誉教授

三 雲 健 教 授 研 究 業 績

論 文

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
	地震発生機構・震源過程に関するもの		
1956	頻発性微小地震における走時曲線の異常	地震, 第2輯, 第8巻	大塚道男・神月 彰
1956	Precise Seismometric Observations in the Epicentral Region of Local Shocks	Mem. coll. Sci., Kyoto Univ., Ser. A., Vol. 28, No. 2	
1957	和歌山地方で観測された微小地震の性質について	地震, 第2輯, 第9巻	
1959	A Consideration on Generation Mechanism of Local Earthquakes	Mem. Coll. Sci., Kyoto Univ., Ser. A., Vol. 29, No. 2	
1960	和歌山地方の局地地震の発震機構について	地震, 第2輯, 第13巻	
1963	Mechanism of Local Earthquakes in Kwanto Region Japan, Derived from the Amplitude Relation of P and S Waves	Bull. Earthq. Res. Inst., 40	K. Mino and T. Onoguchi
1968	Focal Mechanism of Earthquakes on Island Arcs in the Southwest Pacific Region	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 18	
1969	Long-period P Waveforms and the Source Mechanism of Intermediate Earthquakes	J. Phys. Earth, Vol. 17	
1971	Source Process of Deep and Intermediate Earthquakes as Inferred from Long-period P and S Waveforms, 1. Intermediate-depth Earthquakes in the Southwest Pacific Region	J. Phys. Earth, Vol. 19	
1971	Source Process of Deep and Intermediate Earthquakes as Inferred from Long-period P and S Waveforms, 2. Deep-focus and Intermediate-depth Earthquakes around Japan	J. Phys. Earth, Vol. 19	
1972	Focal Process of Deep and Intermediate Earthquakes as Inferred from Long-period P and S Waveforms	Phys. Earth & Planet. Sci., Vol. 6	K. Shiono
1973	Faulting Process of the San Fernando Earthquake of February 9, 1971, Inferred from Static and Dynamic Nearfield Displacements	Bull. Seism. Soc. Am., Vol. 63	
1973	Faulting Mechanism of the Gifu Earthquake of September 9, 1969, and Some Related Problems	J. Phys. Earth, Vol. 21	
1974	Some Considerations on the Faulting Mechanism of the Southeastern Akita Earthquake of October 16, 1970	J. Phys. Earth, Vol. 22	
1975	Tectonic Implications of subcrustal, normal Faulting Earthquakes in the Western Shikoku Region, Japan	J. Phys. Earth, Vol. 23	
1975	濃尾地震の解析的再現	科学, Vol. 45, No. 1	安藤雅孝

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1976	A Search into the Faulting Mechanism of the 1891 Great Nobi Earthquake	J. Phys. Earth, Vol.24	M. Ando
1979	飛騨地方北部特に跡津川断層付近の地震活動と発震機構	地震, 第2輯, 第32巻	和田博夫・小泉 誠
1984	Analytical and Semi-empirical Synthesis of Near-field Seismic Waveforms for Investigating the Rupture Mechanism of Major Earthquakes	J. Phys. Earth, Vol.32	K. Imagawa and N. Mikami
1985	1984年長野県西部地震前後の飛騨地方北部の地震活動と本震の断層モデル	自然災害特別研究 突発災害研究成果 (代表者 飯田汲事), 1984年長野県西部地震の地震および災害の総合調査	和田博夫・金嶋 聡 今川一彦・小泉 誠
	<u>断層の破壊過程に関するもの</u>		
1978	Dynamical Rupture Process on a Three-Dimensional Fault with Non-uniform Frictions, and Near-field Seismic Waves	Geophys. J. Roy. Astr. Soc., Vol. 54	T. Miyatake
1979	Earthquake Sequences on a Frictional Fault Model with Non-uniform Strengths and Relaxation Times	Geophys. J. Roy. Astr. Soc., Vol. 59	T. Miyatake
1980	地震を発生させる応力の大きさと断層の破壊	月刊地球, Vol. 2	
1981	A Possible Rupture Process of Slow Earthquakes on a Frictional Fault	Geophys. J. Roy. Astr. Soc., Vol. 63	
1981	大地震の断層モデルによる長周期地動変位・速度予測	京大防災研究所年報, 第24号B-1	村松郁栄
1981	長周期地震動の予測; 余震・前震など小地震記録の合成による大地震の断層付近での強震動の予測 (その1)	自然災害特別研究成果, 東海地方における大地震の被害予測に関する研究 (代表者 村松郁栄)	
1982	Near-fieldでの地震波形と断層の破壊過程の一考察	地震, 第2輯, 第35巻	今川一彦
1983	Numerical Modelling of Space and Time Variations of Seismic Activity before Major Earthquakes	Geophys. J. Roy. Astr. Soc., Vol. 74	T. Miyatake
1987	Dynamical Fault Rupture Processes in Heterogeneous Media	Tectonophysics, Vol.144	K. Hirahara and T. Miyatake
1987	Numerical Modelling of Realistic Fault Rupture Processes	Seismic Strong Motion Synthetics ed. B.A. Bolt, Chap.3, Academic Press, Inc.	T. Miyatake
1991	Dynamic Fault Rupture and Stress Recovery Processes in Continental Crust under Depth-dependent Shear Strength and Frictional Parameters	Tectonophysics	
1991	Dynamic Rupture Analysis: Inversion for the Source Process of the 1990 Izu-Oshima, Japan, Earthquake (M6.5)	J. Geophys. Res.	E. Fukuyama
1991	Dynamic Rupture Process on Thrust and Normal Faults, and Heterogeneous Distribution of Stress and Strength Inferred from Waveform Inversion Results	Geophys. J. Intn'l.	T. Miyatake

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1991	Dynamic Fault Rupture Processes Recovered from the Results of Waveform Inversion: Spatial Distribution of Asperities and Barriers on the Faults	Phys. Earth & Planet. Intr.	T. Miyatake and N. Mikami
1991	Dynamical Fault Rupture Process during the 1978 Thessaloniki, Northern Greece Earthquake	Tectonophysics	G.F. Karakaisis
	<u>地球内部構造に関するもの</u>		
1953	Investigation of the Structure of the Earth's Crust in Relation to Local Earthquakes (Preliminary)	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., No. 6	A. Kamitsuki
1958	On the Periods of Seismic Waves Observed in Local Earthquakes	Mem. Coll. Sci., Kyoto Univ., Ser. A., Vol. 29	
1958	On Anomalous Time-distance Curves Observed in Local Earthquakes	Tellus, Vol. 1	E. Nishimura and M. Otsuka
1958	Crustal Structure in Northern Kwanto District by Explosion Seismic Observations, Part 2. Models of Crustal Structure	Bull. Earthq. Res. Inst., Vol. 36	T. Usami, E. Shima, I. Tamaki, S. Asano, T. Asada and T. Matuzawa
1959	On the Travel-times of S-waves, Derived from the Explosion Seismic Observations	Bull. Earthq. Res. Inst., Vol. 37	S. Asano, N. Den, E. Shima and T. Usami
1960	和歌山地方の地殻構造について	地震, 第2輯, 第13巻	大塚道男
1960	Crustal Structure in Wakayama District as Derived from Local and Near Earthquakes	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 39	
1961	Crustal Structure in Central Japan as Derived from the Miboro Explosion Seismic Observations	Bull. Earthq. Res. Inst., Vol. 39	M. Otsuka, T. Utsu, T. Terashima and A. Okada
1961	爆破地震動観測による日本中部の地殻構造, 第2部, 地殻構造について	地震, 第2輯, 第14巻	大塚道男・宇津徳治
1964	Determination of Local Phase Velocity by Intercomparison of Seismograms from Strain and Pendulum Instruments	J. Geophys. Res., Vol. 69	寺島 敦・岡田 惇
1965	Crustal Structure in Central California in Relation to the Sierra Nevada	Bull. Seism. Soc. Am., Vol. 55	K. Aki
1965	Determination of Phase Velocity and Direction of Wave Approach from Station Arrays	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., No. 15	
1966	A Study on Crustal Structure in Japan by the Use of Seismic and Gravity Data	Bull. Earthq. Res. Inst., Vol. 44	
1968	和歌山地方の地殻構造と微小地震の発震機構 (序報)	京大防災研究所年報, 第11号A	大塚道男・尾池和夫
1968	極微小地震の多点観測と地下構造の影響	地震, 第2輯, 第21巻	尾池和夫
1968	Q Distribution for Long-period P Waves in the Mantle	J. Phys. Farth, Vol. 16	T. Kurita
1970	和歌山地方の地殻構造と微小地震の発震機構 —1965年共同観測結果—	地震, 第2輯, 第23巻	大塚道男・尾池和夫

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1971	Inferences of a Layered Structure from S Wave Spectra - Part 1. Theoretical Considerations of S Wave Spectrum Method	J. Phys. Earth, Vol. 19	T. Kurita
1971	Inferences of a Layered Structure from S Wave Spectra - Part 3. SH and SV Waves and Some Related Problems	J. Phys. Earth, Vol. 19	T. Kurita
1980	Three-dimensional Seismic Structure of Subducting Lithospheric Plates under the Japan Islands	Phys. Earth & Planet. Sci., Vol. 21	K. Hirahara
1989	Three-dimensional P-wave Velocity Structure beneath Central Japan: Low-velocity Bodies in the Wedge Portion of the Upper Mantle above High-velocity Subducting Plates	Tectonophysics, Vol. 163	K. Hirahara, A. Ikami and M. Ishida
1989	飛騨地方の上部3次元地殻構造と活断層及び地震活動	月刊地球, Vol. 11	平原和朗・竹内文朗 和田博夫・佃 為成 藤井 巖・西上欽也
1990	3-D Spontaneous, Dynamic Rupture Processes on a Dipping Fault in Heterogeneous Media	Tectonophysics	T. Miyatake
1991	Three-dimensional Structure of the Upper Crust in the Hida Region, Central Honshu, Japan, and Its Relation to Active Faults and Local Seismicity	Tectonophysics	K. Hirahara, F. Takeuchi, H. Wada, T. Tsukuda, I. Fujii and K. Nishigami
<u>地震テクトニクスに関するもの</u>			
1980	Tectonics of the Kyushu-Ryukyu Arc as Evidenced from Seismicity and Focal Mechanism of Shallow to Intermediate-depth Earthquakes	J. Phys. Earth, Vol. 28	K. Shiono and Y. Ishikawa
1987	日本海沿岸の地震と広域テクトニクス及び長期的地震予知	地震予知研究シンポジウム1987	石川有三
1985	飛騨北部地方の地震活動, 地震メカニズム及びテクトニクス	地震, 第2輯, 第38巻	小泉 誠・和田博夫
1985	Source Mechanisms of Subcrustal and Upper Mantle Earthquakes around the Northeastern Kyushu Region, Southwestern Japan, and Their Tectonic Implications	J. Phys. Earth, Vol. 33	K. Imagawa and K. Hirahara
1988	Seismotectonics of the Hida Region, Central Honshu, Japan	Tectonophysics, Vol. 147	H. Wada and M. Koizumi
1990	日本海東縁地域の地震活動とメカニズムおよびテクトニクス	地学雑誌, Vol. 99	
1991	Great Earthquake Cycles along the Japan Trench and Troughs, and Their Migrations along the Subducting Slab	J. Phys. Earth	H.Y. Loo, K. Hirahara and S. Yoshioka
1991	Three-dimensional Numerical Modelling of Earthquake Migration along a Northwestern Pacific Subducting Slab	Geophys. Res. Lett.	H.Y. Loo, X.L. Gao, J.X. Sun, K. Hirahara and S. Yoshioka

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
	<u>地震観測・地震活動に関するもの</u>		
1963	Notes on Seismograph Feedback System	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.2	
1965	鳥取微小地震観測所観測序報	京大防災研究所年報, 第8号	一戸時雄・尾池和夫 岸本兆方・橋爪道郎 見野和夫
1967	Seismometric Observations of Matsushiro Swarm Earthquakes - Part 4. Observations of Microearthquakes around Mt. Minakami	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.17	H. Watanabe, M. Nakamura, A. Kuroiso, J. Akamatsu, K. Oike and K. Watanabe
1970	RC回路をもちいた長周期地震計の特性	京大防災研究所年報, 第13号A	
1975	中部地方北西部の地震活動	京大防災研究所年報, 第18号B	和田博夫
1983	跡津川断層と地震活動	月刊地球, Vol.5	和田博夫
1987	飛騨山脈下の最近の顕著な地震活動	地震, 第2輯, 第40巻	和田博夫・小泉 誠
1990	Temporal Variations in Seismic Activity and Precursors before Recent Intraplate Earthquakes in Southwest Japan	U.S. Geological Survey Open-File Report 90 - 98	
1990	飛騨地方北部, 能登半島および富山湾周辺の最近の地震活動	京大防災研究所年報, 第33号B-1	和田博夫・小泉 誠
	<u>地球潮汐に関するもの</u>		
1966	地球潮汐資料のFourier解析	測地学会誌, 第12巻	田中寅夫・中川一郎
1966	Spectral Structure of the Earth Tides and Related Phenomena - Gravimetric Record	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.6	I. Nakagawa and T. Tanaka
1966	Spectral Structure of the Earth Tides and Related Phenomena - Tiltmetric Record	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No.6	T. Tanaka and I. Nakagawa
1968	Some Problems on the Analysis of the Earth Tides	J. Phys. Earth, Vol.16	I. Nakagawa
1976	Time Domain Analysis of Earth Tide Records	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol.26	M. Kato
1977	Possibility of Temporal Variations in Earth Tidal Strain Amplitudes Associated with Major Earthquakes	J. Phys. Earth, Vol.25, Suppl. Vol.	M. Kato, H. Doi, Y. Wada, T. Tanaka, R. Shichi and A. Yamamoto
	<u>気圧波に関するもの</u>		
1968	Atmospheric Pressure Waves and Tectonic Deformation Associated with the Alaskan Earthquake of March 28, 1964	J. Geophys. Res., Vol.73	
1985	Excitation Mechanism of Atmospheric Pressure Waves from the 1980 Mount St. Helens Eruption	Geophys. J. Roy. Astr. Soc., Vol.81	B.A. Bolt
	<u>地殻変動に関するもの</u>		
1965	地殻変動記録のDigital Filtering	地震, 第2輯, 第18巻	田中寅夫
1976	上宝における地殻変動	測地学会誌, Vol.22	土居 光・加藤正明 和田安男

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1978	上宝地殻変動観測所のテレメータ・システム	京大防災研究所年報, 第21号B-1	加藤正明
1979	跡津川断層付近におけるボア・ホール型傾斜計による観測 (I)	京大防災研究所年報, 第22号B-1	加藤正明・土居 光 和田安男・田中寅夫 津嶋吉男・小泉 誠
1980	跡津川断層, 上宝, および中央構造線における光波測量	京大防災研究所年報, 第23号B-1	田中寅夫・細 善信 土居 光・小泉 誠 和田安男・加藤正明 和田博夫
1983	地殻変動観測データの多変量解析—ARIMAモデルによる予測の試み—	地震, 第2輯, 第36巻	橋爪道郎
1988	宝立・立山・須坂観測室の地殻変動テレメータ・システム	京大防災研究所年報, 第30号B-1	加藤正明・土居 光 和田安男・津嶋吉男
1990	跡津川—牛首断層系と長波長地形	京大防災研究所年報, 第33号B-1	川崎一朗・松原 勇 川畑新一・和田博夫
1991	A Model of Postseismic Recovery Induced from a Deep-focus Earthquake	Geophys. J. Intn'l, Vol.72.	S. Yoshioka, H.Y. Loo and K. Hirahara
<u>電磁気・地電流観測などに関するもの</u>			
1986	跡津川断層上(天生・宮川)における地電流の観測	京大防災研究所年報, 第29号B-1	中山 武・加藤正明 土居 光・和田安男
1986	跡津川断層西端上(天生)における地磁気全磁力の連続観測	京大防災研究所年報, 第29号B-1	土居 光・中山 武 加藤正明・和田安男 和田博夫・田中寅夫
1989	宝立における電磁気観測	京大防災研究所年報, 第32号B-1	中山 武・土居 光 和田安男・加藤正明 和田博夫・酒井英男 加藤隆司
1991	跡津川断層および阿寺断層における電磁気観測	京大防災研究所年報, 第34号B-1	中山 武・酒井英男 小林 剛・加藤正明
1991	焼岳における電磁気観測(序報)	京大防災研究所年報, 第34号B-1	酒井英男・平井 徹 澤田豊明・中山 武 和田博夫
<u>報 告 書</u>			
1975	いわゆる東海沖地震について	東海沖地震研究討論会報告	
1977	地震断層の破壊過程に関する1つのモデル	昭和52年度科学研究費(総合研究B), 地震発生機構の統計モデル(代表者, 樋口伊佐夫)	
1978	高密度強震観測網に関する国際会議報告	地震, 第2輯, 第31巻	
1978	第12回Mathematical Geophysics シンポジウム報告	地震, 第2輯, 第31巻	
1979	国際強震地動高密度観測ワークショップ報告	日本地震工学振興会ニュース, No. 48	
1983	地震学データ・ベース JISHIN	京大・大型計算機センター広報, Vol. 16	平原和朗・今川一彦 橋本 学
1983	富山県内の地震による地震動予測に関する研究	富山県地震対策基礎調査報告書	
1985	1985 IASPEIシンポジウムNo. 7, 地震断層形成の力学	地震, 第2輯, 第39巻	

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1987	Introduction to the Special Issue "Mechanics of Earthquake Faulting"	Tectonophysics, Vol. 144	J. H. Dieterich, Y. T. Chen and K. Kasahara
1988	中部・近畿地方の3次元速度・減衰構造とテクニクスの研究	昭和60 - 62年度科学研究費（一般研究B）研究成果報告書	
1988	広帯域グローバル地震観測網の立案	昭和62年度科学研究費（総合研究B）研究成果報告書	
1989	第25回国際地震学・地球内部物理学協会（IASPEI）総会報告	日本地震工学会ニュース, No. 109	
1990	安政飛騨地震の震害とその原因について ——地震学の視点から——	富山県立山博物館委託研究報告書	
1991	「震源の物理と地震の前兆」に関する国際シンポジウム報告	日本地震工学会ニュース, No. 119	島田充彦